SHARP®

AQUOS オーディオ

取扱説明書

シアターラックシステム

形　名

エイ エヌ　エイ エス
AN-AS5000

はじめに

設置・接続・準備

音を楽しむ

困ったときは

情報ページ

テレビは商品に
含まれません。

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- ご使用前に、「安全上のご注意」(**5**～**9**ページ)を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。
- 製造番号は品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と、保証書に記入されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。
- ファミリンク機能をお使いになる場合は、かんたん!!ガイドもご参照ください。

もくじ

はじめに ……… 初めて使うときは必ずお読みください。

付属品 ……… 3
別売品 ……… 4
商標などについて ……… 4
安全上のご注意 ……… 5～9
ご使用上の注意 ……… 10
お手入れのしかた ……… 10
各部のなまえとはたらき ……… 11～14

設置・接続・準備 ……… 操作を始める前に必要な内容です。

本機やテレビなどを設置する ……… 15～24
テレビやレコーダーなどを接続する ……… 25～26
HDMI端子のある機器（テレビやレコーダーなど）を接続する ……… 25
HDMI端子のない機器（テレビやDVDプレーヤーなど）を接続する ……… 26
ケーブル類の処理について/リモコンに乾電池を入れる ……… 27
電源を接続する／電源を入れる ……… 28～29

音を楽しむ ……… 基本的な再生操作と音の調整です。

ファミリンク機能を使わないで
テレビやBD、DVD、ビデオなどの音声を聞く ……… 30
音量などを調整する ……… 31～32
サラウンドやいろいろな音質を楽しむ ……… 33～34
各種デコーダーについて ……… 35
ファミリンクについて ……… 36
ファミリンク機能を使うために
アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する ……… 37～39
ファミリンク機能を使って
レコーダーの映像や音声を楽しむときの設定 ……… 40～41
ファミリンク機能を使って
アクオスやレコーダーの音声を本機で聞く ……… 42～45

困ったときは ……… 本機を使用していて困ったときに調べていただくページです。

「故障かな？」と思ったら ……… 46～48
よくあるお問い合わせ ……… 48～50
エラーメッセージについて ……… 51
リセット操作について ……… 51

情報ページ ……… 仕様などの情報のページです。

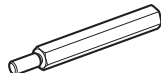
おもな仕様 ……… 52
保証とアフターサービス ……… 53
用語の解説 ……… 54
さくいん ……… 55

本書で使われているマークについて

正しくお使いいただくためのご注意です。

もう少し詳しい説明や、機能の制限事項です。

付属品

付属品をご確認ください。

※当商品は日本国内向けであり、日本語以外の説明書はございません。
This model is designed exclusively for Japan, with manuals in Japanese only.

別売品

ステレオヘッドホン
（オープン価格）

VR-HSA100

VR-HSB10

使いかた→12ページ

商標などについて

HDMI、HDMI ロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号およびAACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS のライセンス契約に基づき、製造されています。
以下が米国パテントナンバーです。
5,956,674　5,974,380　6,487,535
その他の米国内、その他の国におけるライセンス
(出願中含む)
DTS および シンボルは登録商標です。
DTS Digital Surround および DTS ロゴは、DTS, Inc. の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

HVT ロゴはパイオニア株式会社の登録商標です。

AAC は正式名称を MPEG-2 Advanced Audio Coding といい、MPEG-2 仕様の一部として標準化された音声圧縮技術です。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

安全上のご注意

ご使用前に**「安全上のご注意」**を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 警告　人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味
（図記号の一例です）

 記号は、気をつける必要があることを表しています。

 記号は、してはいけないことを表しています。

 記号は、しなければならないことを表しています。

警告

施工は専門業者に依頼する

組み立てや取り付けには確実な工事が必要です。施工は必ず販売店や取付工事業者に依頼してください。

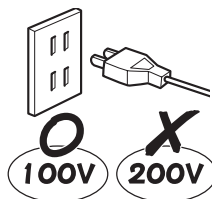
施工は手順に従ってしっかりと行う

組み立て方法や方向は、この説明書に従って施工してください。落下によるけがや破損の原因になります。

指をはさまないように施工を行う

組み立てや取り付けの際には、指などをはさまないようにご注意ください。

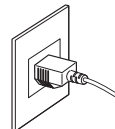
交流100ボルト以外の電圧で使用しない

100ボルト
以外禁止

火災･感電の原因となります。

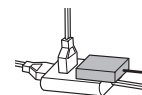
国外では使用できません

禁止

この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
(This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

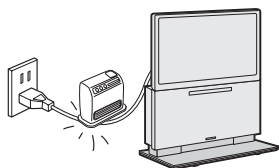
タコ足配線をしない

禁止

火災･感電の原因となることがあります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を載せたり、この製品の下敷きにしない

禁止

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷ついたときは、販売店に交換をご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、製品に触れない

接触禁止

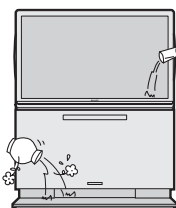
感電の原因となります。

キャビネットを開けたり、改造しない

分解禁止

火災・感電・けがの原因となります。
内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

本機の上に花びんなど、水の入った容器を置かない

水ぬれ禁止

水がこぼれるなどして中に入ると、火災・感電の原因となります。

開口部（バスレフダクトなど）から金属類や燃えやすい物などを入れない

禁止

バスレフダクト

火災・感電・けがの原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

内部に水や異物、または虫などが入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

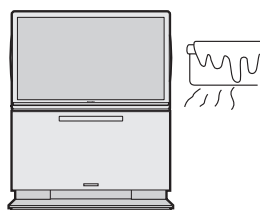
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店にご連絡ください。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

異常な状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。修理を販売店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

風呂やシャワー室では使用しない

風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

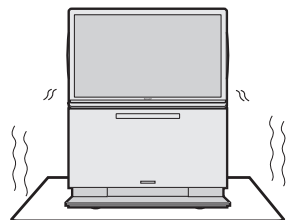
湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たる場所、または調理器具や加湿器の近く、硫化ガス（H_2S、S_2O）が大気中に含まれる温泉地などには設置しない

禁止

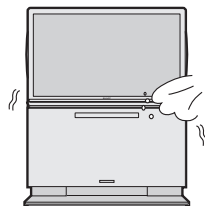
- 火災・感電の原因となることがあります。
- 大気中に含まれる硫化ガス（H_2S、S_2O）に長期間さらされると、硫化により金属が腐食し、故障の原因となることがあります。

⚠ 注意

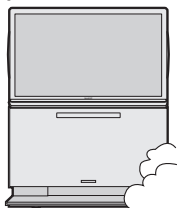
不安定な場所に置かない

禁止

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

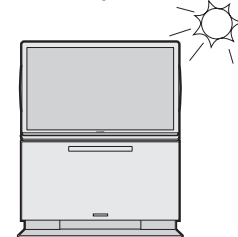
冷気が直接吹きつける所や、極端に寒い場所に置かない

禁止

露がつき、漏電・焼損の原因となることがあります。

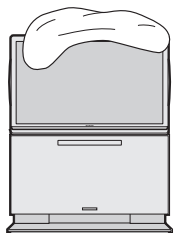
湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たるようなところに置かない

禁止

調理器具や加湿器などのそばに置くと、火災・事故の原因となることがあります。

直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない

禁止

火災・事故の原因となることがあります。

風通しの悪いところで使用しない また、じゅうたんや布団などをかけない

禁止

放熱孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

禁止

電源コードの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。

製品の上に乗らない、ぶら下がらない

禁止

踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。
倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
特にお子様やペットにはご注意ください。

本機は非常に重いので、持ち運びは必ず2人以上で行ってください

指示

腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。

大音量で再生中に万一異音が出た場合は、音量レベルを下げてください

音量を下げる

そのまま使用すると、スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
また、電源を切る前には、アンプの音量を必ず最小にしてください。
電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

⚠ 注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れのときや長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

感電やけがの原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

電源プラグはゆるみのあるコンセントに接続しない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

他の機器を接続するときは、指定のケーブルをお使いください

指定のケーブルを使用

接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよくご覧のうえ、説明に従って接続してください。
また、付属のケーブルや指定以外のケーブルを使用すると、故障の原因となります。

移動するときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続ケーブル、転倒防止具をはずし、テレビやDVDプレーヤーなど設置している機器を降ろしたことを確認のうえ、行ってください

電源プラグを抜く

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
また、落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

据えつけたあと、不意の地震や衝撃等により、テレビなどが倒れてけがをするおそれがあります。テレビなどの転倒防止策を実施ください

転倒防止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

音量を小さく

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力障害を起すことがあります。

リモコンの乾電池についての安全上のご注意
液もれ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

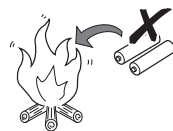
⚠ 注意

乾電池は幼児の手の届く所に置かない

禁止

乾電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。
飲み込んだおそれがあるときは、ただちに医師と相談してください。

乾電池は火や水の中に投入したり加熱・分解・改造・ショートしない また、乾電池は充電しない

禁止

乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池の液がもれたときは素手で触らない

禁止

- 乾電池の液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

指定以外の乾電池を使わない 新しい乾電池と古い乾電池または種類の違う乾電池を混ぜて使わない

禁止

乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池を使いきったときや、長時間使わないときは、乾電池を取り出す

指示

乾電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

表示どおりに入れる

間違えると乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池を水に濡らさない ハンダ付けしない 金属小物(かぎ・装飾品・ネックレス・コイン等)といっしょにポケットやかばんなどに入れない

禁止

- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店またはシャープお客様相談センターまで、ご連絡ください。
- お客様もしくは第三者がこの製品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご使用上の注意

■ 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

■ 本機は、5℃～ 35℃の場所でお使いください。

■ 使用中は、内部から発生する熱により、本機背面のアンプ部が熱くなります。
長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。

■ パソコンなどの機器の近くで使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。
そのときは、それらの機器の電源を切るか、本機との距離をできるだけ離してください。

■ 本機の近くでラジオ受信機やトランシーバー、防災無線機などの無線機器を使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。また、誤動作することがあります。
そのときは、本機との距離をできるだけ離してください。

■ 防磁対応について

スピーカーは、防磁対応されていません。
本機の近くでブラウン管テレビを使った場合は、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。
テレビ画面に色ムラがおきたら…
いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再び電源を入れてください。
それでも色ムラが残るときは…
テレビの位置を少し変えてみてください。
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビ画面に色ムラが生じることがありますので、その場合はテレビを離してください。

・色ムラが消えない場合は、テレビの点検が必要な場合もあります。

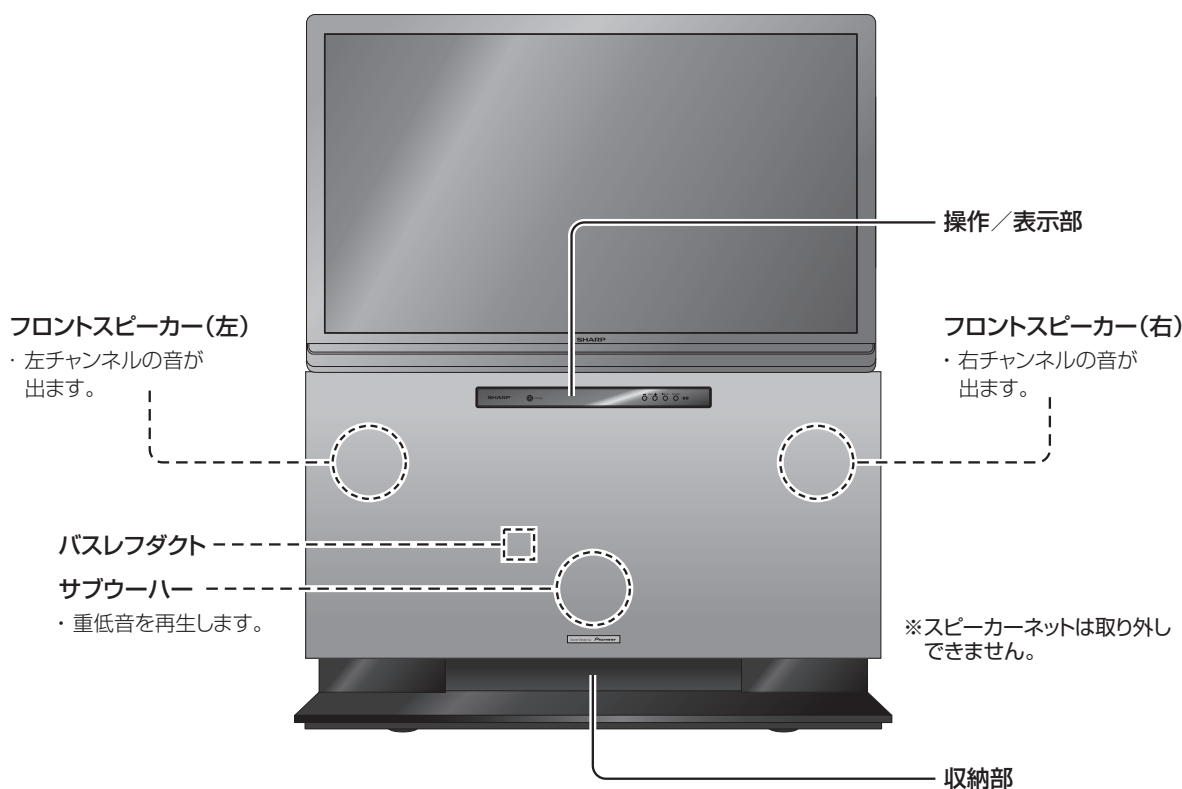
お手入れのしかた

- 汚れは柔らかい布(綿、ネル等)で軽くふき取ってください。
化学雑巾(シートタイプのウェット・ドライのものも含め)をご使用になられますと、本体キャビネットの成分が変質したり、ひび割れなどの原因となる場合があります。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした柔らかい布(綿、ネル等)をよく絞って拭き取り、柔らかい乾いた布で仕上げてください。

・ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使わないでください。また、殺虫剤などの揮発性のあるものをかけないでください。表面の仕上げをいためたり、変色の原因となることがあります。

各部のなまえとはたらき

正　面

※イラストはテレビを取り付けた状態です。

各部のなまえとはたらき（つづき）

操作部

リモコン受信部 29ページ
・リモコンをここに向けて操作してください。

VOL（音量）＋／－ボタン 30～31ページ
・音量を調整します。

電源表示ランプ 28～29ページ
・緑色点灯（動作状態）
・赤色点灯（待機状態）

PHONES　－ VOL ＋　INPUT　POWER

ヘッドホン端子
・ステレオミニプラグ（Φ 3.5mm）の付いたヘッドホンを接続します。
・インピーダンスが16～50Ωのヘッドホンを使用してください（推奨32Ω）。
・プラグを抜き差しするときは、音量を下げてから行ってください。
・ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は聞こえなくなります。

・ヘッドホンを本機に接続しているとき、サウンドモードの切り換え、DD VS、G-AUTOなど、一部の機能が働きません。これらの操作をしたときは、本体表示部に「HP」が約1秒間点滅表示します。
・シャープ製ステレオヘッドホン（別売品）については、**4**ページをご覧ください。

INPUT（入力切換）ボタン 30ページ
・聞きたい機器の入力を切り換えるときに押します。
　押すたびに次の順に切り換わります。

HDMI1（入力）→ HDMI2（入力）→ テレビ → アナログ音声 →（HDMI1（入力）に戻る）

POWER（電源）ボタン 29ページ
・電源を入／切（待機）します。

表示部

入力切換や音量調整、サウンドモード、サブウーハーのレベル調整、消音モードなど本機の設定を表示します。

表示部（入力表示／音量／サウンドモード） 30～34ページ
・本体の現在の入力表示や、サウンドモード、音量、サブウーハーレベル、ドルビーバーチャルスピーカーなど、各設定の内容が表示されます。

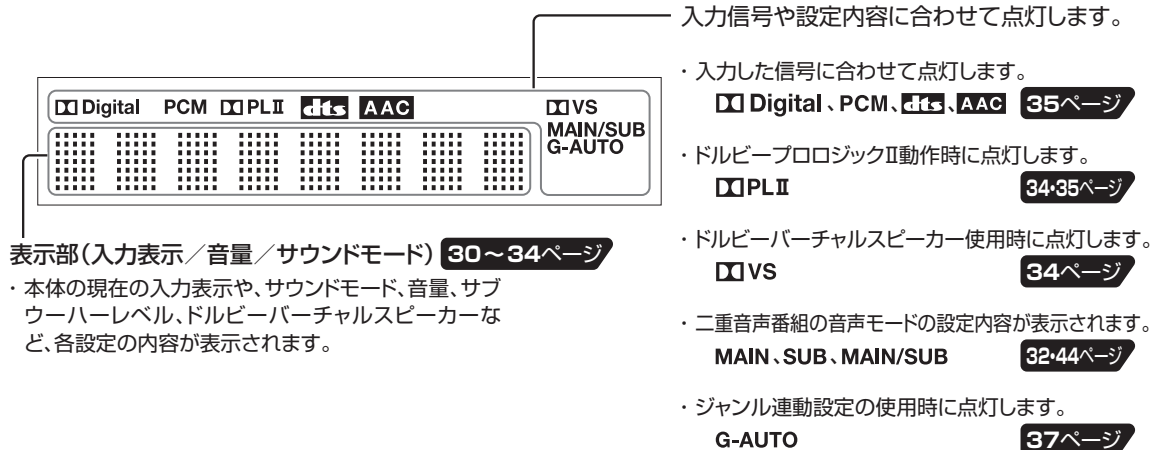
入力信号や設定内容に合わせて点灯します。

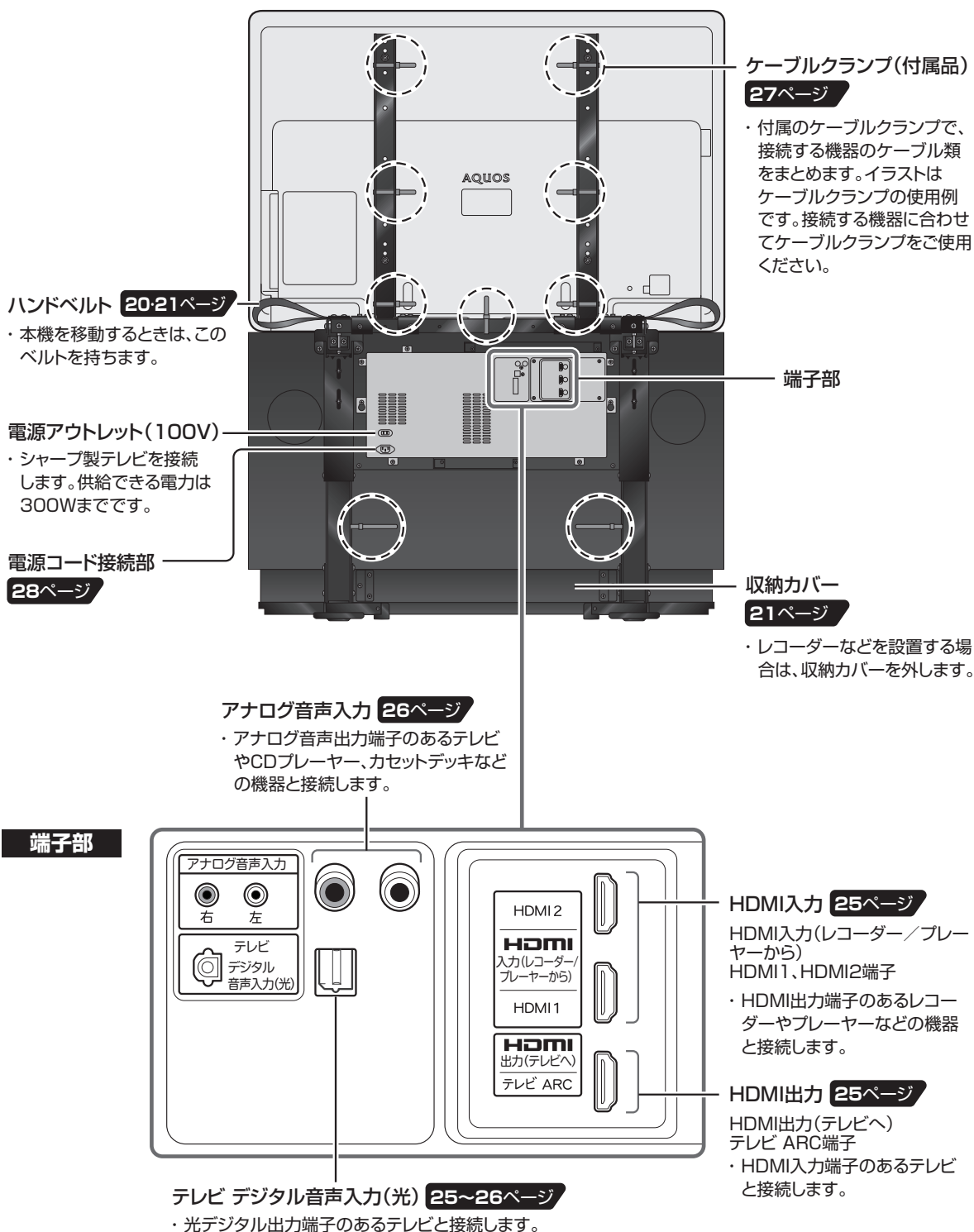
・入力した信号に合わせて点灯します。
　DD Digital、PCM、dts、AAC 35ページ

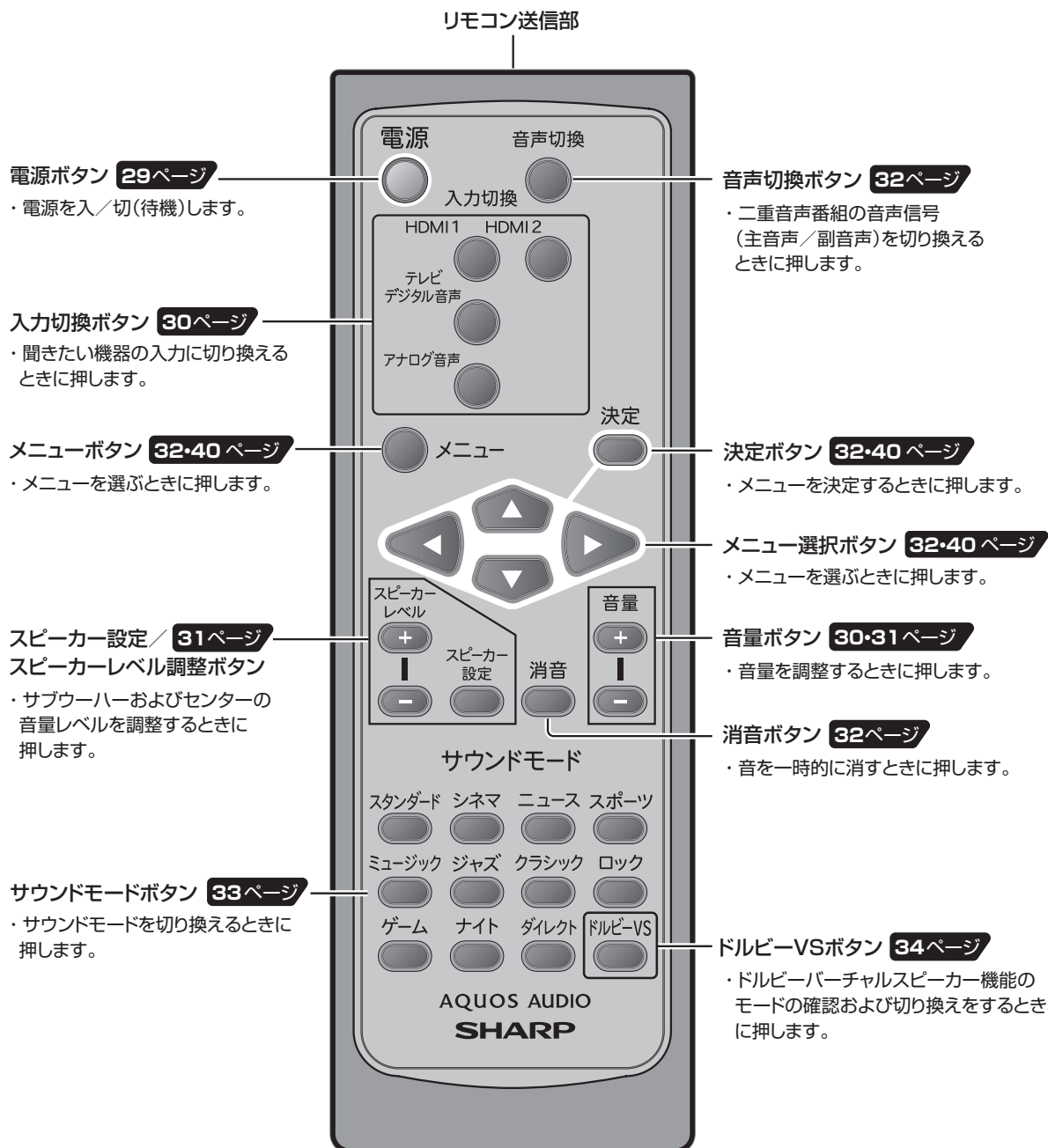
・ドルビープロロジックⅡ動作時に点灯します。
　DD PLⅡ 34･35ページ

・ドルビーバーチャルスピーカー使用時に点灯します。
　DD VS 34ページ

・二重音声番組の音声モードの設定内容が表示されます。
　MAIN、SUB、MAIN/SUB 32･44ページ

・ジャンル連動設定の使用時に点灯します。
　G-AUTO 37ページ

背　面

※イラストはテレビを取り付けた状態です。

各部のなまえとはたらき（つづき）

リモコン

本機やテレビなどを設置する

本機およびテレビの設置は必ず販売店や取付工事業者にご依頼ください。

設置する前に

- 安全のために、手袋を着用してください。
- 本機は非常に重いので、持ち運びなどの作業は必ず2人以上で行ってください。腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。
- 製品を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネット部を強く押したり、触らないようにしてください。スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
- テレビを設置後、本機を動かすときは、**21**ページの手順に従ってください。
- 本機をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機にテレビを取り付けた状態や、収納部にその他の機器を載せたままの状態で移動しないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 液晶テレビ取付部の耐荷重は、約30kgです。
- テレビのスタンドを外すときは、テレビに付属の取扱説明書をよくご覧になってください。外したネジおよびスタンドは、再度スタンドを取り付けるときに必要ですので、大切に保管してください。
- 本機に適合したテレビにつきましては、シャープ液晶テレビ総合カタログ、またはシャープホームページ(http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html)をご覧ください。

①パッケージを開梱する

- 作業を始める前に、本機の設置スペースを確認してください。また、開梱、組み立て、接続などに必要となる、十分広いスペースをあらかじめ確保してください。

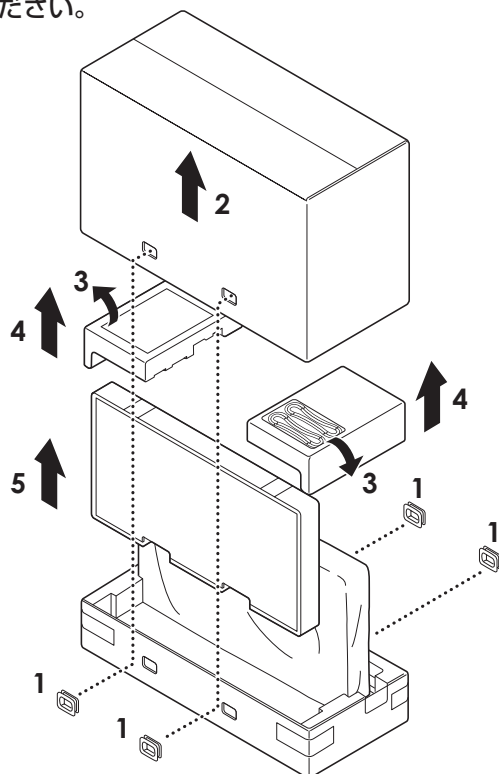
1 ４つのジョイントを外す

2 梱包箱（上）を持ち上げ、外す

3 緩衝材（上）から付属品を取り出す

4 左右２つの緩衝材（上）を取り出す

5 付属品箱を取り出す

※重いので、足の上に落としてけがをしないようご注意ください。

次のページに続く

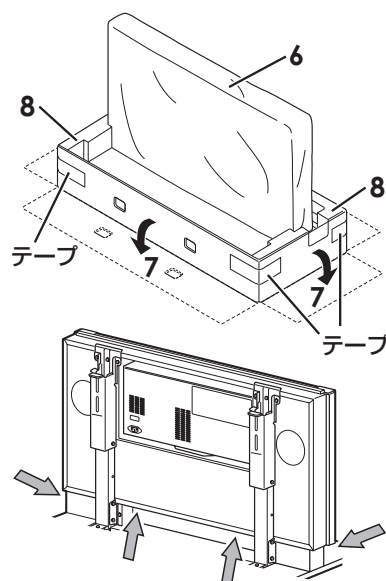
6 本体の梱包シートを取り外す

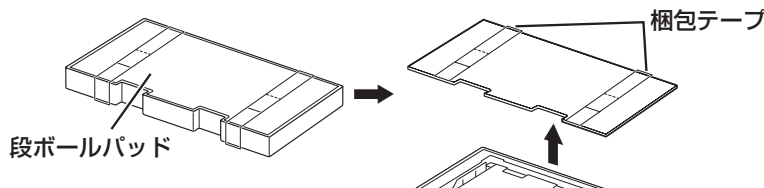
7 テープを外して梱包箱（下）を、四方に開く

8 本体左右を片側ずつ持ち上げ、左右 2 つの緩衝材（下）を 1 つずつ抜き取る

- 本体を持ち上げるときは、本体下部の段差部分と、スピーカーボックスの底面部分（図の➡の部分）を持ってください。
- 梱包箱（下）の上を滑らせて、本体を設置場所付近の床に移動してください。

※重いので、手足を挟んでけがをしないようご注意ください。

※スピーカーネット部は絶対に持たないでください。破損の原因となります。

②付属品を取り出す

1 付属品箱を、段ボールパッドを上にして水平なところに置いてから、梱包テープをカッターで切り、段ボールパッドを外す

2 付属品箱から付属品を取り出す

※付属品を取り出すとき、落としてけがをしないようご注意ください。

※イラストはイメージです。現物とは異なります。

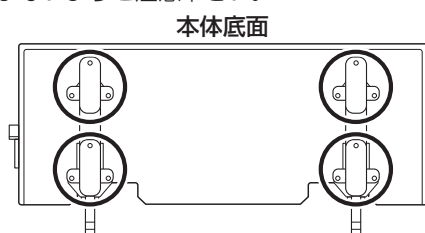
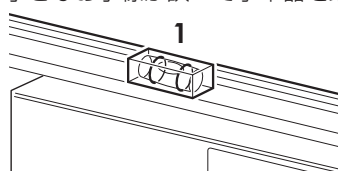
③設置の準備

1 設置場所に置いた本機の上部中央に水準器を載せ、設置場所が水平であることを確認する

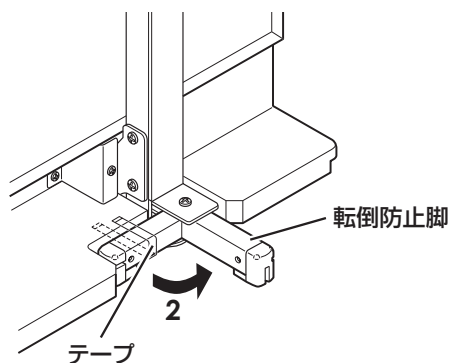
- 水準器のライン内の中央に気泡がおさまるようにします。
- 水平でない場合、付属の高さ調整スペーサを本体の下（イラストの位置）に入れて調整してください。必ず 2 人以上で作業し、1 人が本体を持ち上げ、もう 1 人が高さ調整スペーサを本体の下に差し込んでください。

※手足を挟んでけがをしないようご注意ください。

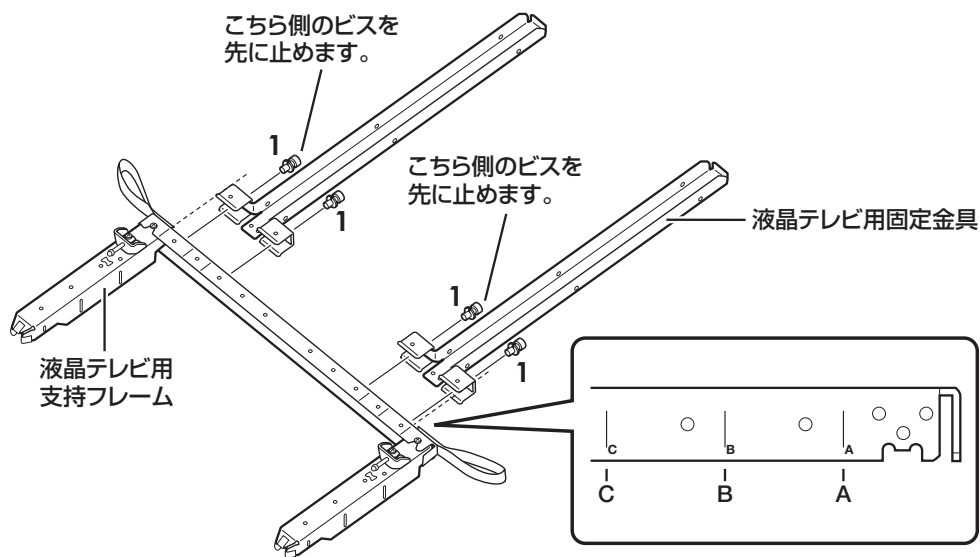
※小さなお子様が誤って水準器を飲み込まないようご注意下さい。

※水準器を載せる場所は、**20** ページをご参照ください。

高さ調整スペーサは○の位置に必要に応じて入れる

2 テープを外して本体背面の 2 つの転倒防止脚を開く

- 止まるまで確実に（90°）開いてください。

④テレビを固定する

1 2 つの液晶テレビ用固定金具を、付属の六角レンチを使って、それぞれ 2 本の六角穴付ビス（小／スプリングワッシャー付）で液晶テレビ用支持フレームに固定する

- 液晶テレビ用固定金具は、液晶テレビ用支持フレームの刻印（A ～ C）に合わせます。
  刻印（A ～ C）横のラインに合わせて、刻印が見えるように取り付けます。取付位置は、取り付けるテレビによって異なります。下の表を見て取り付けてください。

左右両側に刻印があります。

テレビ	取付位置
LC-52LB3	A
LC-46LB3	A
LC-52LV3	A
LC-46LV3	A
LC-40LV3	B
LC-40DR3	B

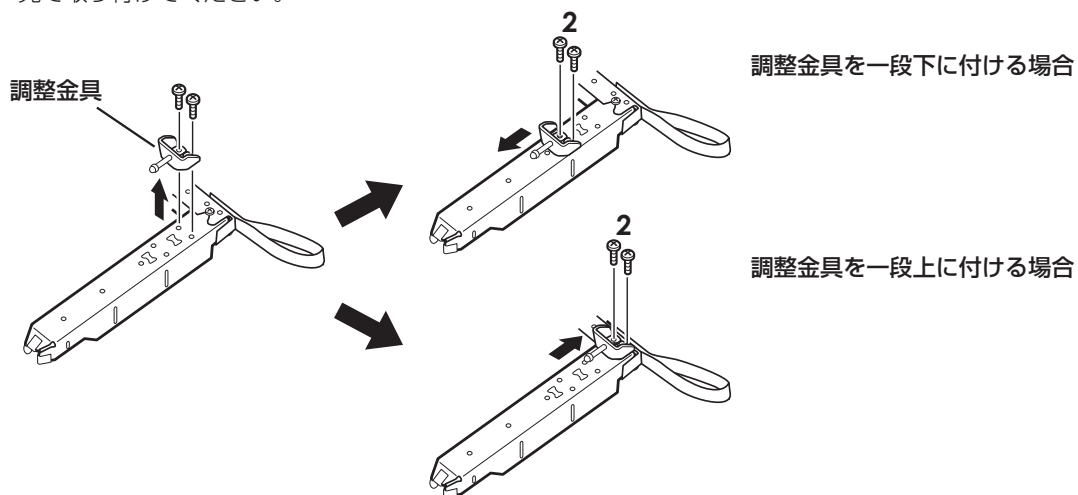
テレビ	取付位置
LC-52L5	A
LC-46L5	A
LC-40L5	B
LC-52Z5	A
LC-46Z5	A
LC-40Z5	B

テレビ	取付位置
LC-52V5	A
LC-46V5	A
LC-40V5	B
LC-40R5	B

- 小さなお子様が誤ってビスを飲み込まないようご注意下さい。
- 本機に適合したアクオスの詳細につきましては、シャープホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html）をご覧ください。

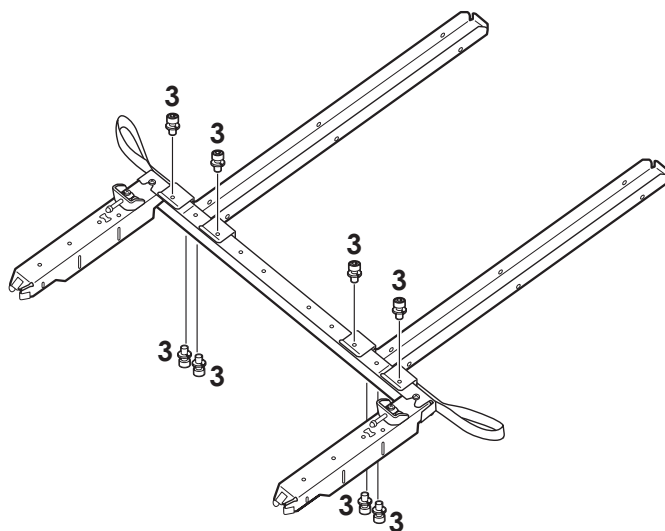
次のページに続く

2 左右の調整金具の位置を定める

・ プラスドライバーを用意してください。取付位置は、取り付けるテレビによって異なります。下の表を見て取り付けてください。

テレビ	取付位置
LC-52LB3	一段下
LC-46LB3	移動なし
LC-52LV3	一段下
LC-46LV3	移動なし
LC-40LV3	移動なし
LC-40DR3	移動なし
LC-52L5	移動なし
LC-46L5	移動なし
LC-40L5	移動なし

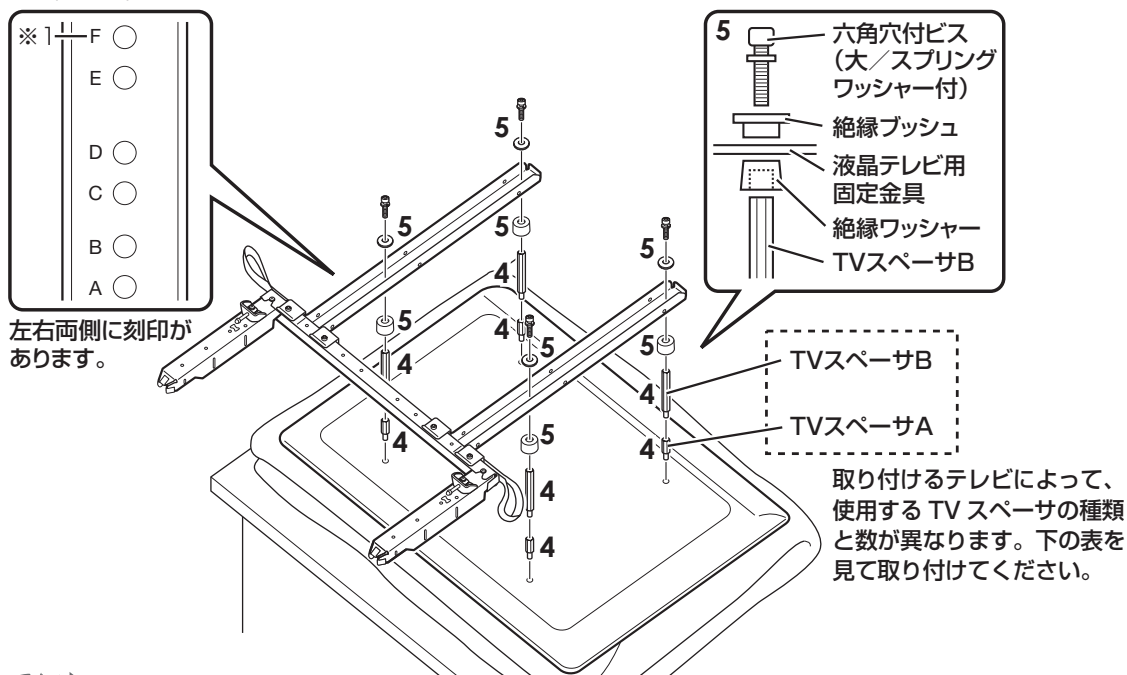
テレビ	取付位置
LC-52Z5	移動なし
LC-46Z5	移動なし
LC-40Z5	一段上
LC-52V5	移動なし
LC-46V5	移動なし
LC-40V5	一段上
LC-40R5	一段上

3 ２本の液晶テレビ用固定金具を、それぞれ４本の六角穴付ビス（小／スプリングワッシャー付）で、液晶テレビ用支持フレームにしっかりと固定する

・ 付属の六角レンチを使用してください。

4 テーブルなどの台の上に毛布などの柔らかい布を敷き、その上にテレビを寝かせ、背面の４ヶ所の金具取付穴に TV スペーサ A、TV スペーサ B を付属のスパナを使って取り付ける

- テレビの機種によって、TV スペーサ A の使用本数が異なります。

5 ４ヶ所の TV スペーサ B に絶縁ワッシャーをかぶせ（向きは図を参照）、４本の六角穴付ビス（大／スプリングワッシャー付）と４枚の絶縁ブッシュで、液晶テレビ用固定金具をテレビに固定する

- 取り付けるテレビによって、ネジ穴の位置が異なります。液晶テレビ用固定金具の下側にある刻印（A 〜 F）に合わせます。下の表で刻印を確認して取り付けてください。

- 絶縁ブッシュと絶縁ワッシャーが4ヶ所とも正しく付いているか、確認してください。

テレビ	取付位置	使用するTVスペーサの数		
		TVスペーサB	TVスペーサA	ＬV3同梱スペーサ
LC-52LB3	C	4	0	-
LC-46LB3	A	4	0	-
LC-52LV3	C	4	→	2(上側左右)※2
LC-46LV3	A	4	→	2(上側左右)※2
LC-40LV3	E	4	→	2(上側左右)※2
LC-40DR3	E	4	0	-
LC-52L5	C	4	0	-
LC-46L5	C	4	0	-
LC-40L5	A	4	0	-
LC-52Z5	B	4	4	-
LC-46Z5	A	4	4	-
LC-40Z5	D	4	4	-
LC-52V5	C	4	0	-
LC-46V5	B	4	0	-
LC-40V5	D	4	0	-
LC-40R5	D	4	0	-

※1 今後発売される液晶テレビ「アクオス」を取り付けるときに使用します。適合機種については、シャープホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html）、またはシャープ液晶テレビの総合カタログをご覧ください。
※2 TV スペーサ A の代わりに、テレビ（LV3 シリーズ）に同梱されているスペーサを使用します。上側は、テレビ同梱のスペーサと TV スペーサ B を、下側は TV スペーサ B のみを使用します。

本機やテレビなどを設置する（つづき）

⑤テレビを本体に固定する

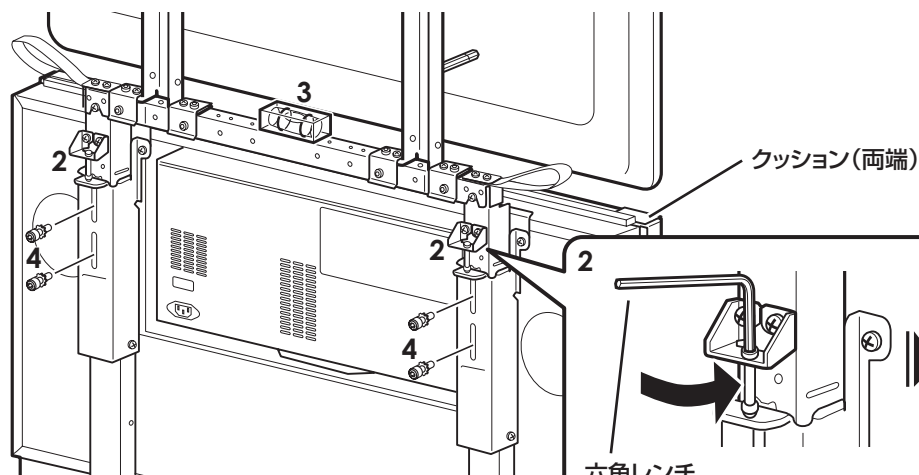
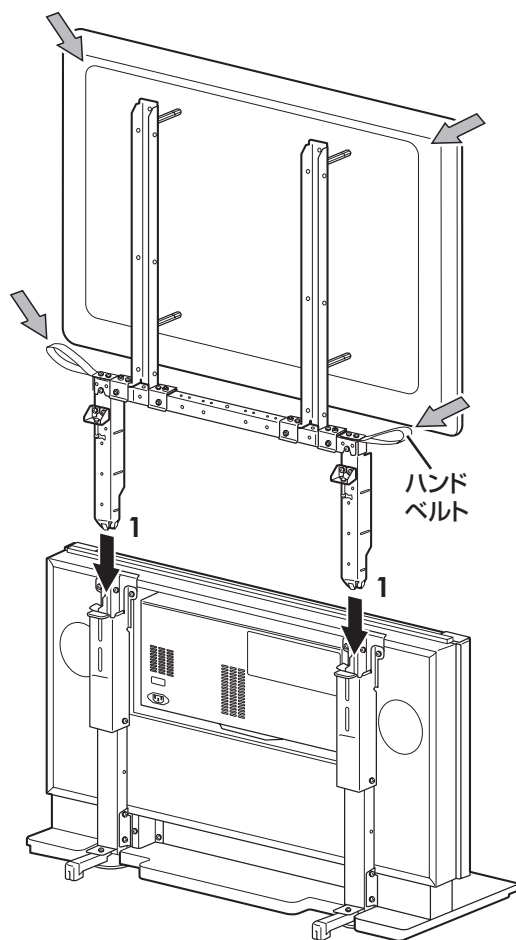
1 2人でハンドベルトとテレビ側面（⇨の部分）を持ちながら、液晶テレビ用支持フレームを本体にゆっくりと挿入する

2 六角レンチで本機背面の高さ調整ネジを、矢印の方向に2～5回転ほど左右交互に回し、テレビが両端のクッションに触れるまで下げる

3 水準器を液晶テレビ用支持フレーム上に置き、水平になるよう高さ調整ネジを微調整する

※ Z5シリーズ、LC-52V5、LC-46V5の場合
この位置からさらに5回転させます。

※ LC-40V5、LC-40R5の場合
この位置からさらに2回転させます。

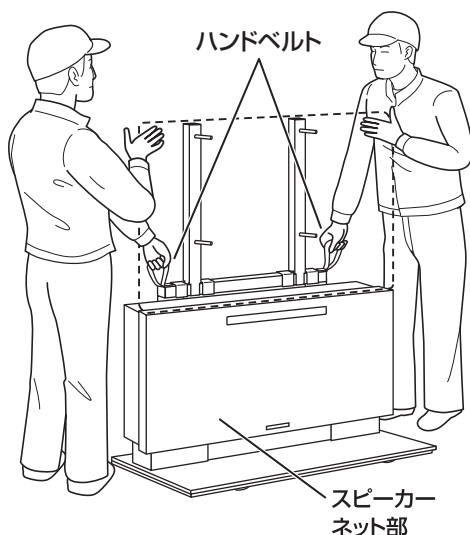
4 4本の六角穴付ビス（中／歯付ワッシャー付）で、液晶テレビ用支持フレームを固定する

設置時の注意およびスピーカー部の取扱い

製品を移動するときや設置するときは、必ず2人以上で行ってください。
テレビを設置後に本機を動かす場合は、次の手順に従ってください。

1 一方の手でハンドベルトを持ち、もう一方の手でテレビの上側をおさえる

2 本機の片側を浮かせて動かし、次に反対側を浮かせて動かす

・片側ずつ交互に動かします。本機の下に布などを入れて、床が傷つかないようにします。

3 2を繰り返して移動させる

- 本機を動かすときは、床に傷をつける恐れがありますので、引きずらないようにしてください。
- 製品を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネット部を強く押したり触らないようにしてください。また、スピーカーネット部を持たないでください。スピーカーネット部やスピーカーの破損の原因となります。
- 指を挟まないように、気をつけて作業を行ってください。

転倒防止脚について（17ページの手順2を参照）

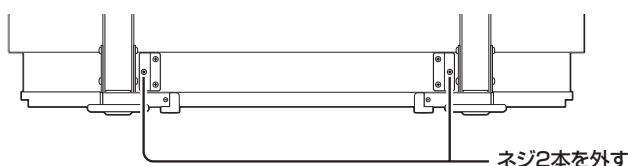
- 本機を壁から離して設置する場合：
  転倒防止脚を完全に（90°）開いてください。
- 本機を壁に寄せて設置する場合：
  転倒防止脚の角度は、0°～90°の間で設置してください。
  転倒防止脚はバネで開くようになっています。
  転倒防止脚をテープなどで抑えて固定しないでください

- 本機を壁から離した場合は、転倒防止脚を必ず（90°）開いてください。

レコーダーなどを設置する

- レコーダーなどとの接続については、25～26ページをご覧ください。
- レコーダー等の機器を収納部に設置するときは、左右のネジ2本を外し、収納カバーを外してください。

※プラスドライバーをご用意ください。

本体背面下部

- 本体ベース板に面した開口部（収納部）の寸法は、484（幅）×66.2（高さ）mmです。
- 収納部の耐荷重は、約10kgです。

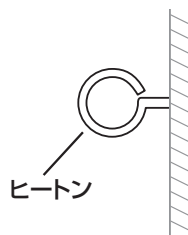
テレビの転倒防止策の例

⚠ 注意

- 不意の地震のときや、お子様がテレビや本機に登ったり、ぶらさがったり、揺すったりすると、倒れてけがをする恐れがあります。
- 安心してご使用いただくために、ご使用のテレビの取扱説明書もあわせてご覧のうえ、転倒防止策の実施をお願いします。

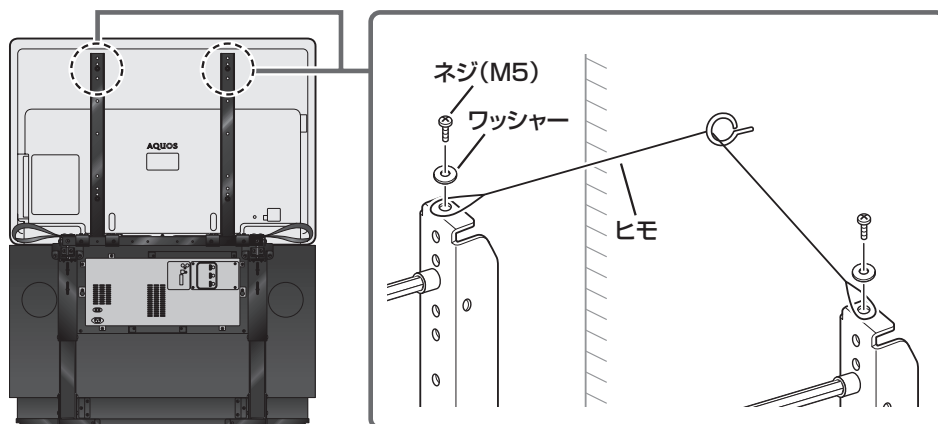
転倒防止策の例1

事前に用意するもの(市販品)
- じょうぶなヒモ× 1･･･ 設置する場所に合った長さのヒモをご用意ください。
- ワッシャー× 2･･･ 外径 15mm、内径 5.5mm、厚み 1mm
- ヒートン････････････････････ 設置する壁の強度に応じて種類、大きさ、数が決まります。販売店や(ヒモが外れない形状のもの) 取付工事業者にご相談ください。
- ネジ× 2･･･ M 5、長さ 15mm
- 工具 ･･･ プラスドライバー

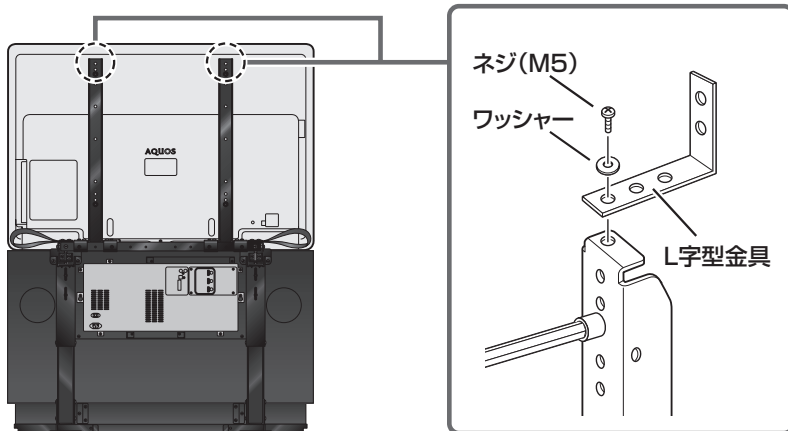
1 壁にヒートンを取り付ける

- 設置する壁の強度に応じてヒートンの種類、大きさ、数が決まります。ヒートンをご用意する際は、販売店や取付工事業者にご相談ください。
- 確実に固定できる堅牢な壁または柱などにヒートンを固定してください。

2 本機を設置場所に移動する

- 必ず 2 人以上で作業してください。移動の方法については、**21** ページをご覧ください。

3 液晶テレビ用固定金具の上端にネジとワッシャーを取り付け、ヒモを使って壁のヒートンとつなぐ

転倒防止策の例2

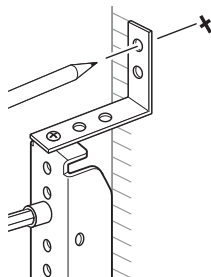
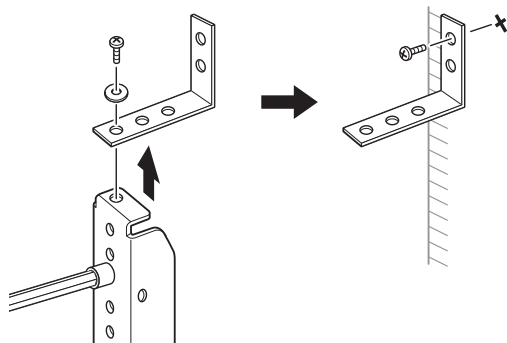
事前に用意するもの（市販品）
- L 字型金具× 2･･･ 設置する場所に合った金具をご用意ください。
- L 字型金具固定ネジ× 2･･･M5、長さ 15mm
- ワッシャー× 2･･･ 外径 15mm、内径 5.5mm、厚み 1mm。L 字型金具のネジ穴径が 6mm以上のとき、ご用意ください。
- 壁取付用ネジ ･･･ 設置する壁の強度に応じてネジの種類、長さ、本数が決まります。販売店や取付工事業者にご相談ください。
- 工具 ･･･ プラスドライバー

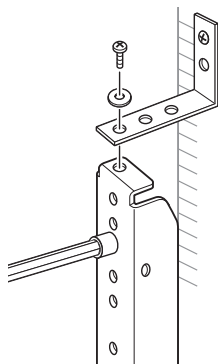
1 液晶テレビ用固定金具の上端に L 字型金具を取り付ける

2 本機を設置場所に移動する

- 必ず 2 人以上で作業してください。移動の方法については、**21** ページをご覧ください。

3 L 字型金具のネジ穴に合わせて、背面の壁にエンピツなどで印をつける

4 いったん本機を壁から離す

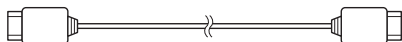
次のページに続く

5 L 字型金具を液晶テレビ用固定金具の上端から取り外し、壁につけたネジ穴の位置にネジで固定する

- 設置する壁の強度に応じてネジの種類、長さ、本数が決まります。ネジをご用意する際は、販売店や取付工事業者にご相談ください。
- 確実に固定できる堅牢な壁または柱などにL字型金具を固定してください。

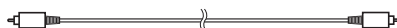
6 本機を設置位置に移動し、L 字型金具を液晶テレビ用固定金具に固定する

テレビやレコーダーなどを接続する

HDMI端子のある機器(テレビやレコーダーなど)を接続する

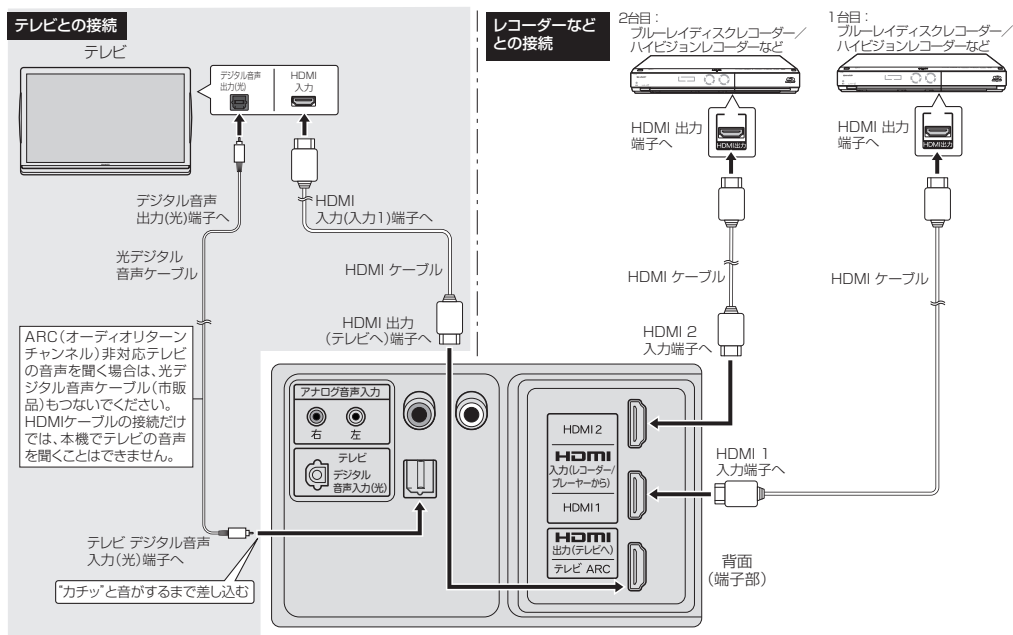
- **接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。**
- ご使用の機器の取扱説明書もよくご覧のうえ、接続してください。
- ARC(オーディオリターンチャンネル)対応アクオスの音声を聞く場合は、ARC対応のHDMI入力端子(入力1)と接続し、アクオスの「リンク操作」—「ファミリンク設定」—「ARC設定」を「自動」モードに設定してください。

使うケーブル

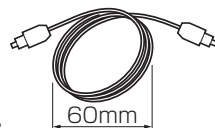
HDMI ケーブル（付属品または市販品）

光デジタル音声ケーブル（市販品）

- 使用する前に、保護キャップがついている場合は取り外して接続してください。
- HDMIケーブルが２本以上必要なときは市販品をお買い求めください。

HDMIケーブルについて

- 市販品のHDMIケーブルをお使いになるときは、より安定した動作や画質劣化などの防止のため、２m以下のHDMIロゴ表示のあるハイスピードタイプ対応のHDMIケーブルをお買い求めください。
- HDMI ケーブルは奥まで差し込み、引っ張らないようにしてください。コネクターが端子から抜けると、本機が正常に動作しなくなりますので、ケーブルクランプで固定してください。(**27**ページ)

お知らせ

- 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損します。直径60mm以下には曲げないでください。

60mm

- ファミリンク対応の当社製アクオスやハイビジョンレコーダーなどを接続した場合は、ファミリンク機能が使用できます。(**36～45**ページ)
- HDMI によるコントロール機能に対応した本機以外のオーディオ製品を本機やテレビに接続しないでください。ファミリンクによる正常な動作ができなくなります。
- レコーダーなどのHDMI機器は、なるべく本機のHDMI入力に直接接続してください。テレビに直接接続されたHDMI機器の音声を本機で聞くことができない場合があります。
- 3D対応のレコーダーを接続するときは3D対応のHDMI端子と本機を接続してください。
- 3Dの映像をテレビで楽しむときや、テレビのHDMI端子から本機のHDMI出力端子(テレビ ARC)へ音声信号を入力するときは付属のHDMIケーブルまたは市販のハイスピードタイプ対応のケーブルをご使用ください。

HDMI端子のない機器(テレビやDVDプレーヤーなど)を接続する

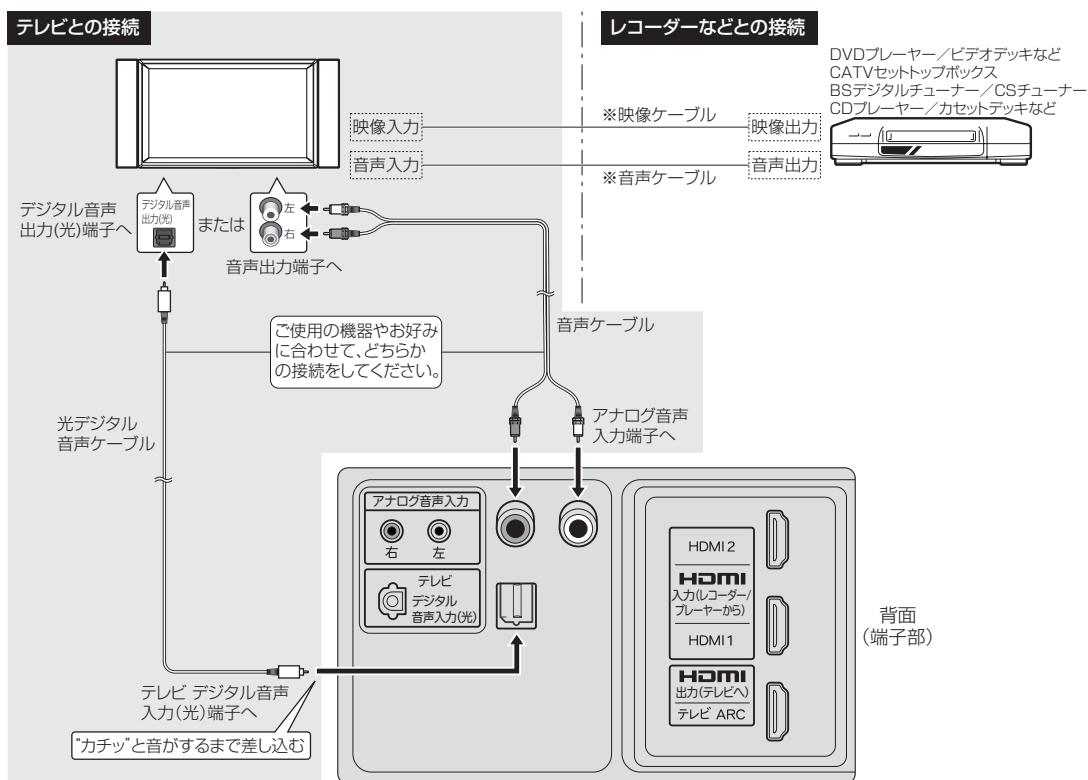
- **接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。**
- ご使用の機器の取扱説明書もよくご覧のうえ、接続してください。

使うケーブル

- 映像出力機器の場合は、映像出力とテレビの映像入力を映像ケーブルで直接接続してください。

※映像ケーブルの接続に関しては、接続する映像機器の説明書をご覧ください。

テレビとの接続
レコーダーなどとの接続
DVDプレーヤー／ビデオデッキなど
CATVセットトップボックス
BSデジタルチューナー／CSチューナー
CDプレーヤー／カセットデッキなど
映像入力
音声入力
※映像ケーブル
※音声ケーブル
映像出力
音声出力
デジタル音声出力(光)端子へ
デジタル音声出力(光)
または
左
右
音声出力端子へ
ご使用の機器やお好みに合わせて、どちらかの接続をしてください。
音声ケーブル
光デジタル音声ケーブル
アナログ音声入力端子へ
アナログ音声入力
右 左
テレビ デジタル 音声入力(光)
HDMI 2
HDMI 入力(レコーダー/プレーヤーから)
HDMI 1
HDMI 出力(テレビへ)
テレビ ARC
背面（端子部）
テレビ デジタル音声入力(光)端子へ
"カチッ"と音がするまで差し込む

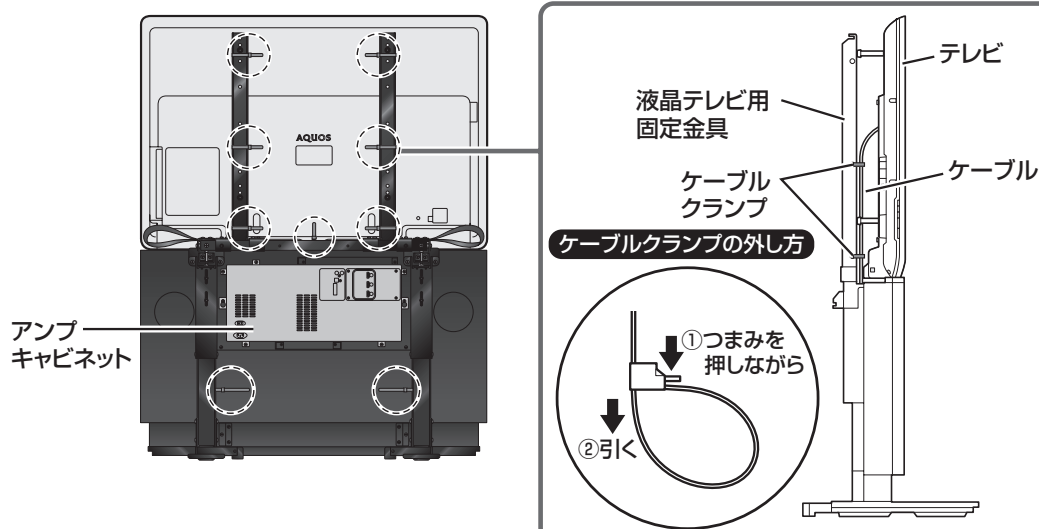
お知らせ

- 光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損します。直径60mm以下には曲げないでください。
- 音声ケーブルは、抵抗の入っていないものをお買い求めください。
  抵抗の入っている音声ケーブルを使うと音が小さくなります。
- 音声ケーブルでテレビと接続している場合に、二重音声番組をお聞きになるときは、テレビのリモコンで音声を切り換えてください。
- 音声ケーブルでレコーダーと接続している場合に、二重音声番組をお聞きになるときは、レコーダーのリモコンで音声を切り換えてください。

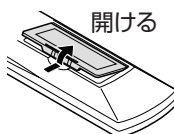
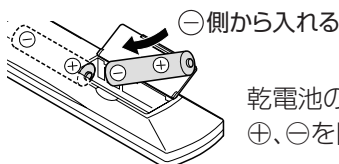
ケーブル類の処理について/リモコンに乾電池を入れる

ケーブル類の処理について

- テレビなどの接続を終えた後、付属のケーブルクランプで、接続しているケーブル類をまとめます。イラストはケーブルクランプの使用例です。ケーブルクランプを使用する位置や数は、接続する機器に合わせてください。
- ケーブル類は、アンプキャビネットに当たらないように、ケーブルクランプでまとめてください。

• HDMIケーブルの配線処理について

HDMI ケーブルを端子に差し込んだままケーブルを誤って引っ張るなどして HDMI 端子に負荷が加わると、HDMI 端子の破損や、接触不良の原因となります。
直接 HDMI 端子に負荷がかからないようにしてください。

リモコンに乾電池を入れる

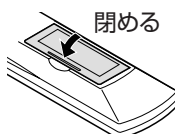
1 フタのつまみを押して、矢印の方向に開ける

リモコン用乾電池の交換時期は？

通常のご使用で約1年です。
リモコン受信部に近よらないと動作しなくなったときは、乾電池を交換してください。

2 単3乾電池を2本入れる

乾電池の方向に注意して入れてください。
⊕、⊖を間違えると、故障の原因となります。

3 フタを閉める

お知らせ

- リモコンには充電池（ニカド電池など）を使用しないでください。充電池では正しく動作しません。

電源を接続する／電源を入れる

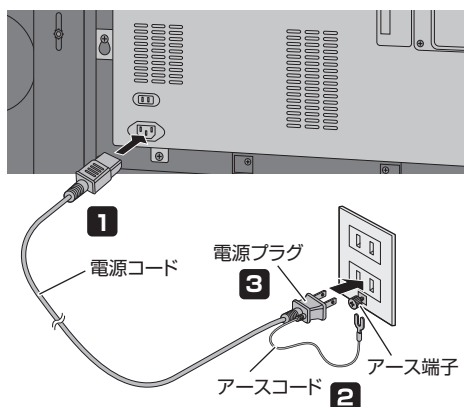
電源を接続する

各機器の接続が終わったら、最後に電源プラグを家庭用コンセントに差し込んでください。

1 電源コードを本体に接続する

2 アースコードをアース端子に接続する

・アース端子のないコンセントに接続するときは、アースキャップを取り付けたままコンセントに差し込みます。

3 電源プラグをコンセントに差し込む

電源表示ランプが赤色に点灯します。

- それぞれの機器の電源プラグを差し込むときは、テレビの電源プラグを最後に差し込んでください。
- HDMI ケーブルの抜き差しや接続方法を変えた場合は、全ての機器の電源を入れた状態でテレビの電源を入れ直してください。
- 電源は家庭用コンセント（AC100V、50/60Hz）を使用してください。
- 手で容易に電源プラグを抜き差しできるように、本機をコンセントの近くに設置してください。

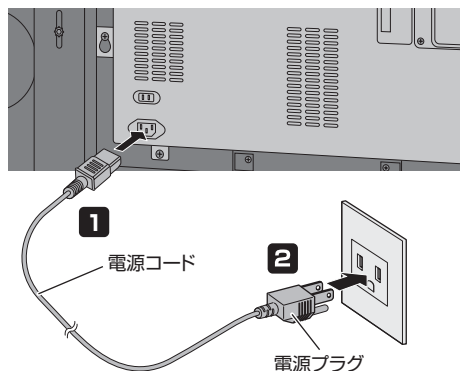
電源コードについて

- 電源コードは 2本付属しています。壁のコンセントの形状に合わせてお使いください。
- 付属の電源コードのアースは、本機の機能を十分に発揮するための機能アースです。ご使用には、アース端子への接続をおすすめします。

●アース端子付きコンセントに接続する場合

- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを接続してください。
- アースコードを取り外すときは、必ず先に電源プラグをコンセントから抜いたあとで行ってください。

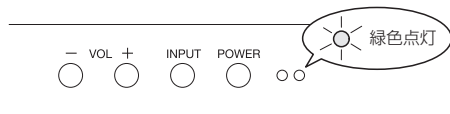
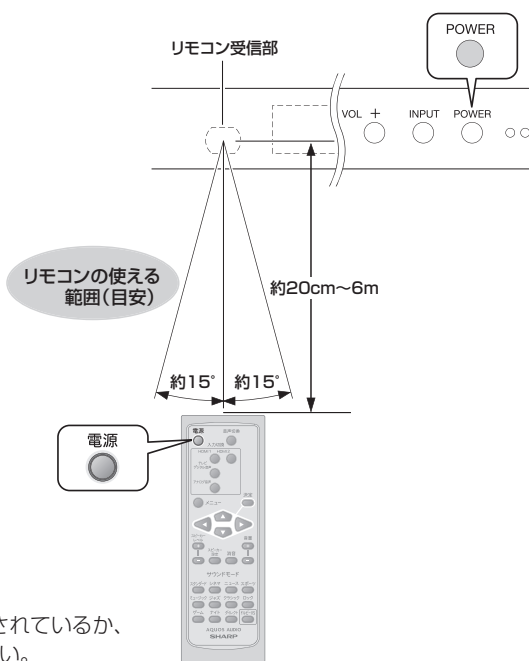
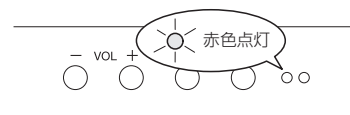
- アース付きでないコンセントに接続するときは、アースコードに装着されているアースキャップを取り外さないでください。

●3極対応コンセントに接続する場合

節電のために
旅行などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。
電源を切っていても、多少ですが電力を消費しています。

ご注意

- 電源プラグを抜くときは、電源を切ってからプラグの部分を持って抜いてください。
線を引っ張ると断線の原因となります。

電源を入れる

お知らせ

- 電源が入らないときは、電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、またはリモコンに乾電池が正しく入っているか確認してください。
- リモコン受信部に強い光があたる場所では使用しないでください。誤動作の原因となります。
- リモコン受信部や送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間に障害物などを置かないでください。リモコンの操作ができなくなります。
- リモコン受信部や送信部にほこりがたまると、動作しにくくなることがあります。柔らかい布でふきとってください。
- 電源を入れた直後の約4〜6秒間は音が出ません。
- 電源を切ったあとの数秒間は、すぐに電源が入りません。

ファミリンク機能を使わないで
テレビやBD、DVD、ビデオなどの音声を聞く

1 電源 を押して、本機の電源を入れる

2 聞きたい機器の入力を選ぶ

本体ボタンで操作する場合

「INPUT」(入力切換)ボタンをくり返し押して選ぶ

(表示部に表示が出た後、操作してください。)
入力は次の順に切り換わります。
(動作は表示より少し遅れます。)

リモコンで操作する場合

聞きたい機器の入力ボタンを直接押す

- ファミリンク対応のテレビをHDMIケーブルで接続している場合は、「HDMI 1」と「HDMI 2」を選択したときのみ、テレビの入力も連動して切り換わります。
- 本機の入力切換を「テレビ」にしても、接続しているテレビの入力は切り換わりません。

3 聞きたい機器を再生する

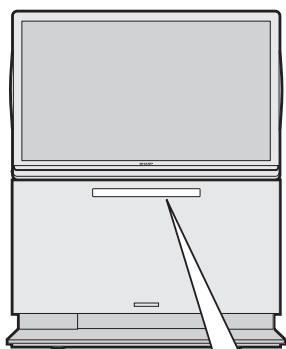
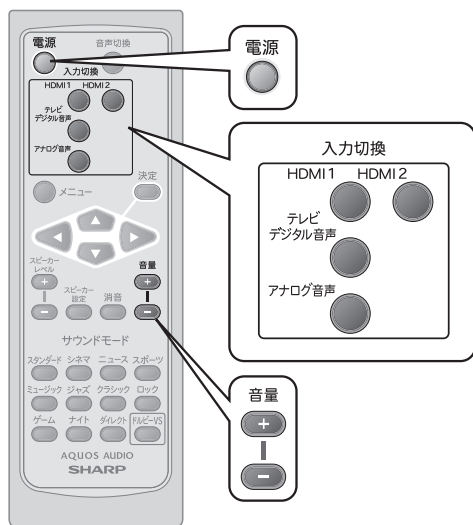
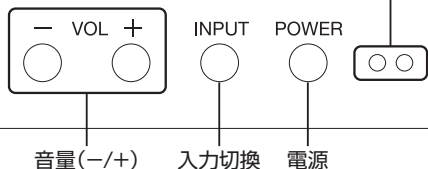
4 音量 を押して、音量を調整する (31ページ)

- 各入力モードごとに音量の設定ができます。

5 サラウンドやいろいろな音質を楽しむ(33～34ページ)

聞き終えたら

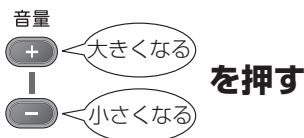
電源 を押して、電源を切る

(音量を下げたあと、電源を切ってください。)

音のエチケットについて

- 楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。
  ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
- 夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくしてお楽しみください。

音量などを調整する

音量を調整するには

を押す

表示部（スピーカー使用時）

VOL 20

表示部（ヘッドホン接続時）

HP 20

約3秒表示

調整範囲：0（小）〜50（大）

• 音量レベルが表示されます。

サブウーハーの音量レベルを調整するには

サブウーハーから聞こえる音の大きさを調整します。

1 スピーカー設定 **を押して、「SW レベル」を表示させる**

2 スピーカーレベル ＋（大きくなる）／－（小さくなる） **を押す**

• 現在のサブウーハーの音量レベルが表示されます。表示されている間（約8秒以内）に、もう一度押すとサブウーハーの音量レベルを変えることができます。
• 各サウンドモードごとにレベルの設定ができます。

表示部

約8秒表示

調整範囲：−5〜+5

お知らせ

• サブウーハーの音が大きすぎて歪むときは、サブウーハーのレベルを下げてください。

センターの音量レベルを調整するには

左右のスピーカーのセンター（中央）から聞こえる音の大きさを調整します。

1 スピーカー設定 **を押して、「C レベル」を表示させる**

2 スピーカーレベル ＋（大きくなる）／－（小さくなる） **を押す**

• 現在のセンターの音量レベルが表示されます。表示されている間（約8秒以内）に、もう一度押すとセンターの音量レベルを変えることができます。
• 各サウンドモードごとにレベルの設定ができます。

表示部

C レベル +2

約8秒表示

調整範囲：−5〜+5

お知らせ

• 入力信号がステレオ／モノラルのときは、センターの音量レベルを変えても音量は変化しません。ただし、ドルビーバーチャルスピーカーが「オン」のときは、音量は変化します。また、入力信号が音声多重のときは、センターの音量レベルを変えても音量は変化しません。

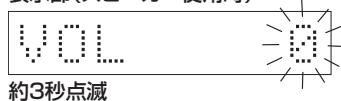
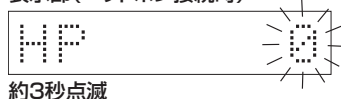
一時的に音声を消すには

を押す

表示部（スピーカー使用時）

約3秒点滅

表示部（ヘッドホン接続時）

約3秒点滅

- もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
- 他のボタン操作をしても、消音モードは解除されます。ただし、入力切換や音声切換、メニューの操作をしたときは、解除されません。
- 電源を切って入れ直すと、消音モードは解除されます。

音声を切り換えるには

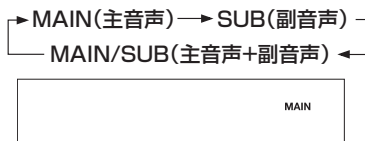
本機の表示部に「MAIN」や「SUB」が点灯する二重音声番組では、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声切換 **を押す**

→MAIN（主音声）→SUB（副音声）→MAIN/SUB（主音声+副音声）→

- 押すたびに切り換わります。

MAIN

お知らせ

- 接続している機器のデジタル音声出力設定をAACにしてください。PCMでは機能しません。
- マルチ音声番組や複数の音声が収録されているBDやDVDの映画などの音声は、本機のリモコンで切り換えることはできません。接続している機器の音声切り換え機能をご使用ください。

表示部を消灯モードにするには

1 メニュー **を押す**

HDMI オン

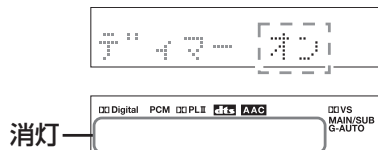
2 ◀▲▼▶ **で「ディマー」を選ぶ**

ディマー オフ

3 オン ▲ / オフ ▼ **で「オン」を選び、** 決定 **を押す**

ディマー オン

消灯

DD Digital PCM DD PLII dts AAC DD VS MAIN/SUB G-AUTO

- 表示部が消灯します。
- 「オン」「オフ」を選ぶだけで換わります。
- ドルビーバーチャルスピーカーが設定されている場合、サウンドモードを示すアイコンは、消灯モードのときも点灯します。
- 消灯モードのときにボタン操作を行うと、現在の設定を約3秒表示したあと、消灯します。

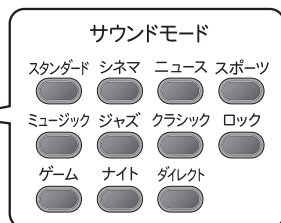
設定を元に戻すには…

「オフ」を選び、決定 を押します。

サラウンドやいろいろな音質を楽しむ

プリセットサウンドモードを選んで聞くには

11種類のサウンドモードの中からお好みの音場を手がるに選べます。

聞きたいサウンドモードボタンを押す

プリセットサウンドモードの種類	表示部のモード表示	音のイメージ
スタンダード	スタンダ゛ート゛	標準の音声で楽しめます。
シネマ	シネマ	低音が強調された迫力のある音と、5.1ch のような広がりのある音場で楽しめます。 セリフが聞き取りやすく、映画などを聞くときに適したモードです。
ニュース	ニュース	低音を抑え、小音量にしても聞き取りやすいクリアな音声になります。 ニュースなどを聞くときに適したモードです。
スポーツ	スホ゜ーツ	解説者の声は聞き取りやすく、歓声などは広がりのある音場で楽しめます。 野球やサッカーなどのスポーツ中継を聞くときに適したモードです。
ミュージック	ミューシ゛ック	ボーカルなどがクリアな音で楽しめます。 音楽などを聞くときに適したモードです。
ジャズ	シ゛ャス゛	低音と高音を若干強調し、伸びのある音で楽しめます。 ジャズなどを聞くときに適したモードです。
クラシック	クラシック	低音を若干強調し、高域に伸びのある音で楽しめます。 クラシックなどを聞くときに適したモードです。
ロック	ロック	低音と高音を強調し、歯切れの良いメリハリのある音で楽しめます。 ロックやポップスなどを聞くときに適したモードです。
ゲーム	ケ゛ーム	低音が強調された迫力のある音とクリアな高音が楽しめます。 ゲームなどを楽しむときに適したモードです。
ナイト	ナイト	大きな音を抑え、小音量にしてもセリフが聞きとりやすく、5.1ch のような広がりのある音場で楽しめます。 映画などの音を深夜に小音量で聞くときに適したモードです。
ダイレクト	タ゛イレクト	音質調整処理をせず、原音信号を再生するモードです。

お知らせ

- それぞれのプリセットサウンドモードのサブウーハーとセンターの音量レベルは、推奨のレベル値にあらかじめ設定されています。
- サブウーハーやセンターの音量レベル調整(**31**ページ)は、それぞれのプリセットサウンドモードごとに設定することができます。お買いあげ時の状態に戻したいときは、〈お買い上げ時の設定状態に戻すには〉(**51**ページ)を行ってください。
- スタンダード、ニュース、スポーツ、ミュージック、ジャズ、ゲーム、ナイトのサウンドモード時、入力信号が大きすぎたり小さすぎたりした場合には、自動的に適切な音量レベルにする機能が働きます。この機能を働かせたくない場合は、上記以外のサウンドモードでお聞きください。

サラウンドやいろいろな音質を楽しむ（つづき）

ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)で聞く

■ ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)は、2.1chスピーカーで5.1chのようなサラウンド効果を楽しむことができるシステムです。
2chのステレオ信号でDVSが働いているときは、ドルビープロロジックⅡ(**35**ページ)も働いて、5.1chのようなサラウンド効果を楽しむことができます。

を押す

現在のDVSのモードが表示されます。
表示されている間(約3秒以内)に、もう一度押すと次の順でモードが切り換わります。

「DVS　オート」→「DVS　オン」→「DVS　オフ」

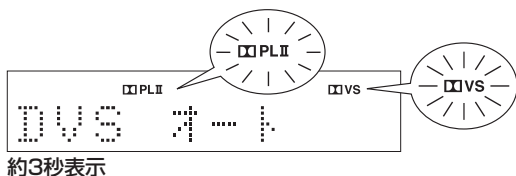
DVS オート時

プリセットサウンドモードと音声信号の種類によって、下記表のようにDVSのオン／オフが自動的に切り換わります。

プリセットサウンドモードの種類	2chステレオ信号(サラウンド情報なし)	2chステレオ信号(サラウンド情報あり)および5.1chなどのマルチ信号
スタンダード、ミュージック、ジャズ、クラシック、ロック	オフ	オン*1
シネマ、ニュース、スポーツ、ゲーム、ナイト	オン*2	オン*1
ダイレクト	オフ	オフ*3

・ サラウンド情報とは元の信号がマルチチャンネルであることを示す情報です。

＊1 2chステレオ信号でもサラウンド情報が入っている場合は、ドルビープロロジックⅡとDVSを働かせて、5.1chに近い臨場感を得ることができます。
＊2 サラウンド情報が入っていない場合でも、映画のセリフやアナウンサーの声などをより聞き取りやすくするために、DVSが「オン」となります。
＊3 5.1chマルチ信号の場合は、2.1ch再生になります。

約3秒表示

•2chステレオ信号でDVSが働いているときは**VS**と**PLⅡ**(**PRO LOGICⅡ**)の両方が点灯します。
5.1chなどのマルチ信号でDVSが働いているときは**VS**のみが点灯します。

DVS オン時

ダイレクトを除く全てのプリセットサウンドモードでDVSを「オン」にします。
2chステレオ信号や5.1chなどのマルチ信号を再生する場合にDVSが働き、5.1chのようなサラウンド効果を楽しめます。
・ プリセットサウンドモードがダイレクトの場合は DVS が働きません。

DVS オフ時

全てのプリセットサウンドモードでDVSを「オフ」にします。
・ 5.1chマルチ信号の場合は、2.1ch再生になります。

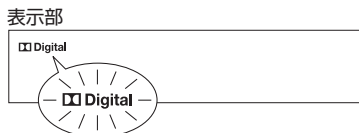
お知らせ

・ モノラル信号では、ドルビープロロジックⅡやDVSを働かせてもサラウンド効果を得ることはできません。
・ 入力信号の種類によっては、DVSが働かないことがあります。
(例：二重音声などの信号で「DVS オン」のモードの場合は表示部の **VS** が点滅し、DVSの効果は得られません。
「DVS オフ」または「DVS オート」のモードにすると表示部の点滅を消すことができます。)
・ ダイレクトモードは音質処理をせず、原音信号を再生するモードです。そのため、「DVS オート」や「DVS オン」のモードに設定してもDVSは働きません。他のプリセットサウンドモードに切り換えた場合は、「DVS オート」や「DVS オン」のモード設定に従ってDVSが働きます。

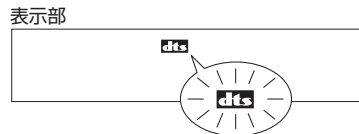
各種デコーダーについて

■ この製品には、ドルビーデジタル方式･DTS方式･デジタル放送のAAC方式に対応した各種デコーダーを搭載しています。

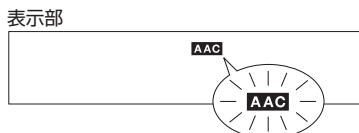
DOLBY DIGITAL

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このドルビーデジタル方式の音を楽しむことができます。

• ドルビーデジタル方式の信号が入力されると点灯。

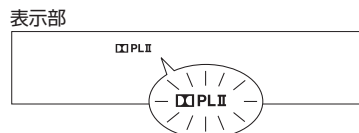
DTS(Digital Theater Systems)

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このDTS方式の音を楽しむことができます。

• DTS方式の信号が入力されると点灯。

AAC(Advanced Audio Coding)

デジタル放送に採用されているデジタル音声システムです。デジタルチューナーからの出力をHDMI(ARC対応)ケーブル、または光デジタル音声ケーブルを使って本機に接続したときは、高音質な音を楽しむことができます。

• デジタル放送のAAC方式の信号が入力されると点灯。

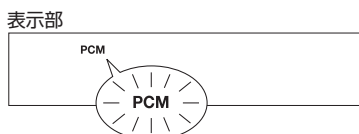
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ

2chステレオ音声を広がりのある音に拡張するシステムで、2chステレオ信号のとき、ドルビーバーチャルスピーカーを「オン」にすると、ドルビープロロジックⅡが働き、立体的な音響効果を楽しめます。

• ドルビープロロジックⅡが働くと点灯。

PCM(Pulse Code Modulation)

CDやDVDなどに採用されているデジタル音声信号の総称です。
本機では、CD や DVD などのデジタル音声を楽しむことができます。

• PCM信号が入力されると点灯。

お知らせ

本機でデコードし、音声を鳴らすことができるデジタル音声信号は、このページに記載されている方式のみです。
これ以外のデジタル音声信号を鳴らす場合は、アナログ音声接続(**26**ページ参照)または接続機器側の設定等を変更することでお楽しみください。(**41**ページ参照)
詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書や再生するソフトの説明書(音声設定メニューなど)をご覧ください。

ファミリンクについて

ファミリンク機能*[1]とは

■ 本機とファミリンク対応の当社製アクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどの機器をHDMIケーブルで接続することで、これらの機器が相互に連携し動作する機能です。

■ アクオスのリモコン(またはブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーのファミリモコン)をアクオスに向けて操作することにより、本機の電源「入／切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。
また、アクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーの動作に連動して、本機の入力切換が自動で切り換わります。
ただし、アクオスの設定で、「AQUOSオーディオで聞く」*[2]モードを選んでいない場合は、これらの機能は働きません（ただし、本機の電源「切」は設定に関係なく連動します）。

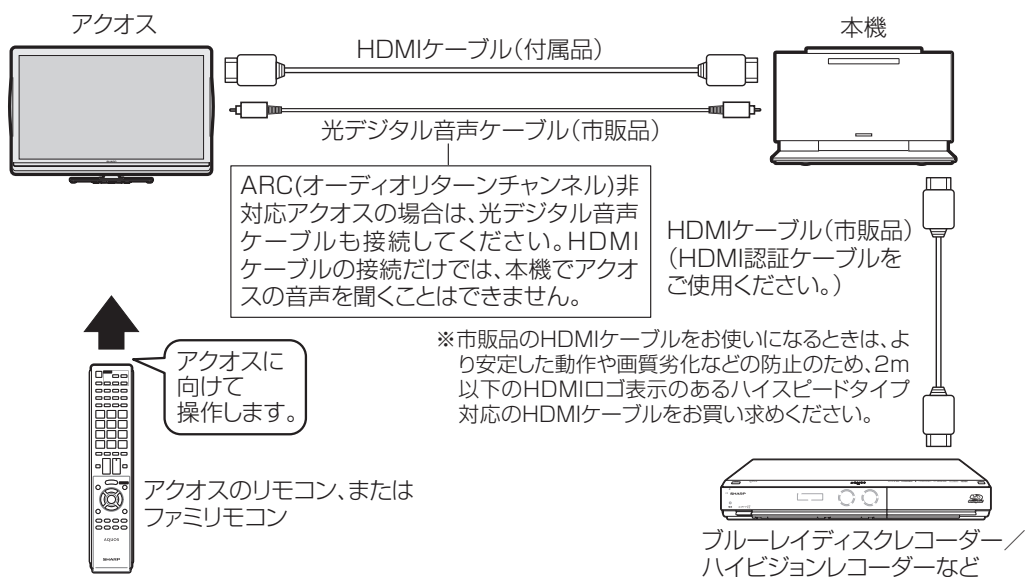
＊1 製品によっては、ファミリンク機能の名称ではなく、HDMIコントロール機能という名称を使用しているものもあります。
＊2 製品によっては、「AQUOSオーディオで聞く」ではなく、「AQUOSサラウンドで聞く」という名称を使用しているものもあります。

また、新製品や旧製品などのファミリンク対応製品と組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書に記載されている内容と異なる場合があります。ご使用になる各機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

ファミリンク対応機種については･･･シャープホームページまたは当社液晶カラーテレビの総合カタログをご覧ください。

シャープホームページでの確認方法

アドレスを入力し AQUOS オーディオのページを開き、「AQUOS ファミリンク対応状況」でご確認ください。

http://www.sharp.co.jp/support/an/index.html

具体的な接続方法は、25ページをご覧ください。

お知らせ

- ファミリンク機能を使うには、本機とアクオスやブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどをHDMIケーブルで接続する必要があります。
  ファミリンクに対応した当社製アクオス、ブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどを直接接続してください。
- アクオスのリモコンやファミリモコンをアクオスに向けて操作してください。
  本機やブルーレイディスクレコーダー、ハイビジョンレコーダーなどは、ファミリンクのリモコン信号を直接受信しません。
- 詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

アクオスのリモコンを使って
アクオス側の設定を変えます

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

[操作で使用するボタン]

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

デジタル放送の番組に合わせて本機のサウンドモードが自動で切り換わるように設定する

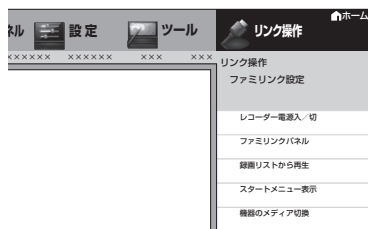
アクオスの「ジャンル連動」を「する」に設定すると、デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。

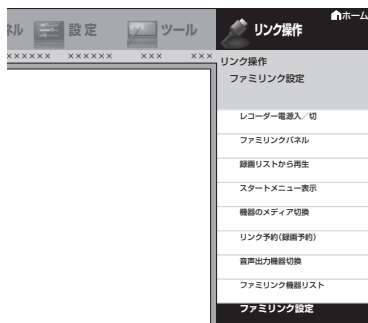
- ジャンル情報の詳細につきましては、**43** ページをご覧ください。
- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書もあわせてご覧ください。**

1 ホーム を押す

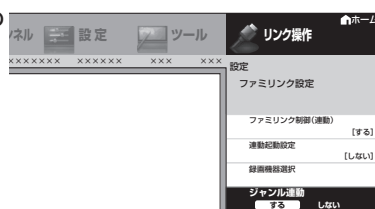
• ホームメニュー画面が表示されます。

2 （◀▶）で「リンク操作」を選ぶ

アクオスの画面例

3 （▲▼）で「ファミリンク設定」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

4 （▲▼）で「ジャンル連動」を選ぶ

5 （◀▶）で「する」を選び、決定 を押す

アクオスの画面例

本機の表示部

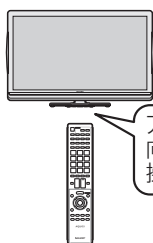
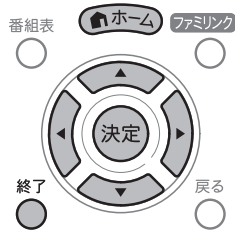
6 ホーム または 終了 を押す

• ホームメニュー画面が消えます。

ジャンル連動を解除するには…

上記の手順5で「しない」を選び、決定 を押します。

アクオスのリモコンを使ってアクオス側の設定を変えます

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する(つづき)

[操作で使用するボタン]

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

デジタル放送のサラウンド番組を臨場感のある音声で聞けるように設定する

アクオスの「デジタル音声設定」を「ビットストリーム」に設定すると、デジタル放送のサラウンド音声があるテレビ番組を本機で聞いているとき、臨場感のある音声で聞くことができます。

- 設定する前に、アクオスの入力切換を「テレビ」にしてください。
- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書もあわせてご覧ください。**

1 ホーム を押す

• ホームメニュー画面が表示されます。

2 ▲▼◀▶で「設定」を選ぶ

アクオスの画面例

3 ▲▼◀▶で (機能切換) ー「外部端子設定」を選び、決定を押す

アクオスの画面例

4 ▲▼◀▶で「デジタル音声設定」を選び、決定を押す

アクオスの画面例

5 ▲▼◀▶で「ビットストリーム」を選び、決定を押す

アクオスの画面例

• 製品によっては「ビットストリーム」ではなく、「AAC」と表示されているものもあります。

6 ホーム または 終了 を押す

• ホームメニュー画面が消えます。

「PCM」に設定した状態では…

- サラウンド番組において十分なサラウンド効果は得られません。
- 二重音声番組の受信中に、本機のリモコンで音声切換の操作をしても音声を切り換えることはできません。
  本機から聞こえる音声を切り換えるには、アクオスのリモコンをアクオスに向けて操作します。
  このとき、本機の表示部には音声モードの表示はされません。本機に音声モードの表示をさせるには「ビットストリーム」または「AAC」に設定してください。

アクオスに向けて操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

アクオスのリモコン(またはファミリモコン)で、アクオスと連動して本機の電源を入れたり、音量や消音、音声切換の操作ができるようになります。

- **新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書もあわせてご覧ください。**

1 **(ホーム)を押す**

・ホームメニュー画面が表示されます。

2 **で「リンク操作」－「音声出力機器切換」を選び、(決定)を押す**

アクオスの画面例

3 **で「AQUOSオーディオで聞く」を選び、(決定)を押す**

アクオスの画面例

4 **(ホーム)または 終了 を押す**

・ホームメニュー画面が消えます。

お知らせ

・ファミリンク動作時(「AQUOSオーディオで聞く」モードの時)は、アクオスと本機の両方から同時に音声を出すことはできません。

アクオスから音声を聞くように戻すには…

上記の手順3で「AQUOSで聞く」を選び、を押します。

お知らせ

・本機は消音モード状態になります。
・本機の音量調整などは使用できなくなります。
・本機の電源を切っていても、レコーダーの操作をすると電源が入る場合があります。

ファミリンク機能を使って

本機のリモコンを使います

レコーダーの映像や音声を楽しむときの設定

レコーダーを再生したときに、アクオスで見る映像と本機から出る音声のズレを軽減したい場合は・・・

レコーダーを再生したときに、アクオスで見る再生映像と本機から聞こえる音声にズレがあると感じた場合には、音声の遅延(ディレイ)設定を調整してください。
本機から出る音声の出力を遅らせて映像とのズレを軽減させることができます。

お買い上げ時の状態:遅延(ディレイ)設定「オート」モード
設定するには:本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 メニュー **を押す**

HDMI オート

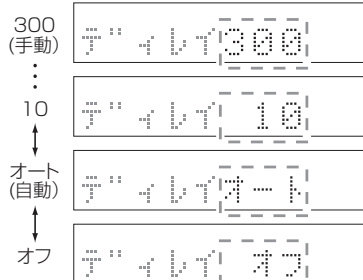
2 ◀▶ **で「ディレイ」を選ぶ**

ディレイオート

- 現在のモード(設定値)が表示されます。

3 ▲▼ **でディレイ時間を選び、** 決定 **を押す**

- 音声遅延(ディレイ)自動設定機能付のファミリンク対応アクオスとHDMIケーブルで接続した場合に、「ディレイオート」を選んでいると最適な音声遅延状態に自動で設定されます。
(自動設定機能が付いていないテレビと接続している場合、ディレイ量は“0”になります。)
- 手動設定は10mS～300mSの範囲で、10mS単位で調整できます。
- ディレイ時間を選ぶだけで換わります。

お知らせ

- 音声の遅延設定は、HDMI1/HDMI2/テレビのそれぞれの入力で個別に設定できます。
アナログ音声入力では、設定することができません。
- 調整操作時に、再生音にノイズが発生する場合があります。
- 「オート」モードでは、アクオスまたは本機の入力を切り換えたときやディスクを再生しはじめたときなど、映像に音声を合わせるために一瞬音声が途切れることがあります。

HDMIモードの設定について

お買い上げ時の状態は、効果的な省エネモードになる「HDMIオート」モードに設定されています。
ファミリンク対応機器(レコーダーなど)を接続している場合は、本機の電源が「切」のときでもアクオスで映像を見たり音声を聞いたり、コントロールすることができます。
ファミリンク非対応機器(レコーダーなど)を接続している場合は、「HDMIオン」モードに設定することにより、アクオスで映像を見たり音声を聞いたりすることができます。

お買い上げ時の状態:「HDMI オート」モード
設定するには:本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 メニュー **を押す**

HDMI オート

2 ◀▶ **で「HDMI」を選ぶ**

HDMI オート

3 ▲(オン)▼(オート) **で「オン」を選び、** 決定 **を押す**

HDMI オン

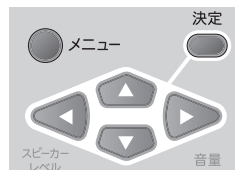
- 「オン」「オート」を選ぶだけで換わります。

設定を元に戻すには…

「オート」を選び、 決定 **を押します。**

お知らせ

- 「HDMIオート」モードに設定の状態では、本機の電源を切ったときにアクオスからレコーダーの映像や音声が出なくなります。そのときは、アクオスの入力を一度他の入力に切り換えて元の入力に戻してください。
「HDMIオン」モードに設定の状態で本機の電源を切ったときは、いったんレコーダーの映像や音声が出なくなりますが、約15秒後に自動で復帰します。
- 「HDMIオン」モードのときは、待機消費電力が増加します。

操作で使用するボタン

ハイビジョンレコーダーやブルーレイディスクレコーダーなどをご使用のお客さまへ

アクオスファミリンク機能を使って、本機でサラウンド音声を楽しむために、それぞれの機器の音声出力設定を行ってください。

設定のしかた

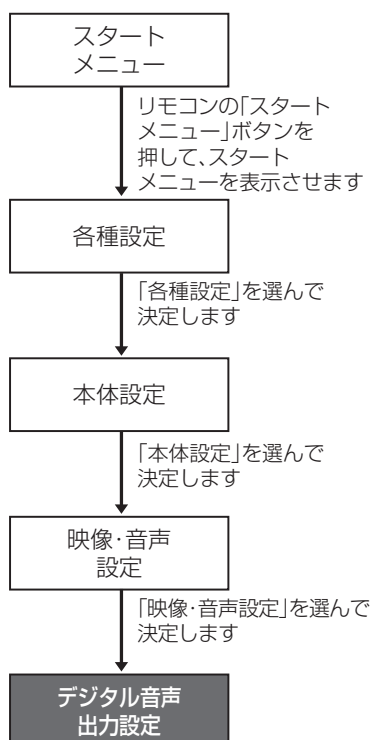
それぞれの機器の設定方法に従って、音声出力設定を行ってください。

例）シャープ製ハイビジョンレコーダー（DV-ACW85)の場合

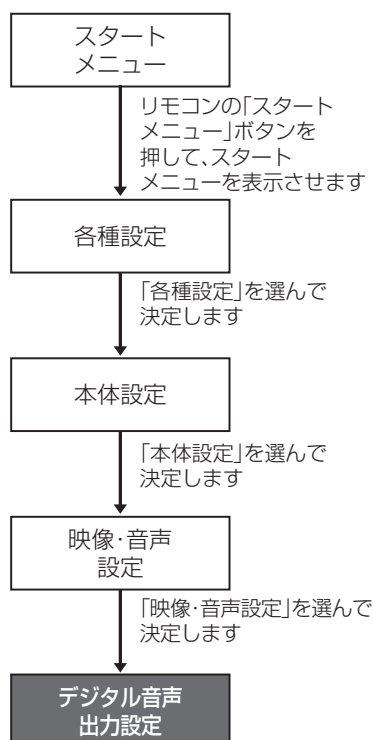
スタートメニュー
↓ リモコンの「スタートメニュー」ボタンを押して、スタートメニューを表示させます

各種設定
↓ 「各種設定」を選んで決定します

本体設定
↓ 「本体設定」を選んで決定します

映像･音声設定
↓ 「映像･音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **デジタル放送視聴時の信号形式**
  AAC を選んで決定します
- **DVD再生時の信号形式**
  ドルビーデジタル／DTS を選んで決定します

例）シャープ製ブルーレイディスクレコーダー(BD-HDW32/35/40)の場合

スタートメニュー
↓ リモコンの「スタートメニュー」ボタンを押して、スタートメニューを表示させます

各種設定
↓ 「各種設定」を選んで決定します

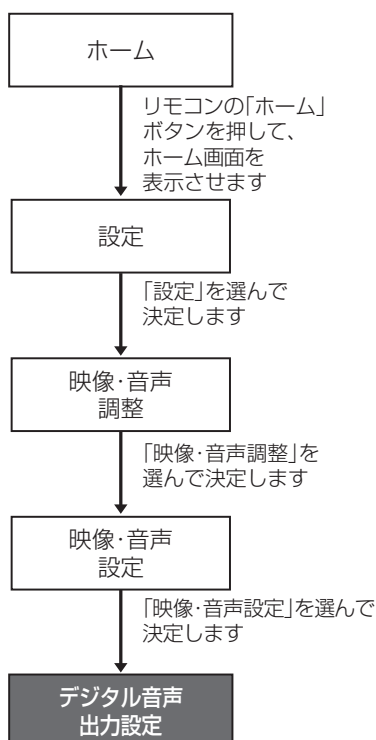
本体設定
↓ 「本体設定」を選んで決定します

映像･音声設定
↓ 「映像･音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **サラウンド機器を接続する出力端子**
  HDMI を選んで決定します

- **HDMI出力端子から出力される信号形式**
  オート を選んで決定します

例）シャープ製ブルーレイディスクレコーダー(BD-W2000/1000/500)の場合

ホーム
↓ リモコンの「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面を表示させます

設定
↓ 「設定」を選んで決定します

映像･音声調整
↓ 「映像･音声調整」を選んで決定します

映像･音声設定
↓ 「映像･音声設定」を選んで決定します

デジタル音声出力設定
⇩ 「デジタル音声出力設定」を選んで決定します

- **サラウンド機器を接続する出力端子**
  HDMI を選んで決定します

- **HDMI出力端子から出力される信号形式**
  オート を選んで決定します

- 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書の「映像･音声設定」－「(デジタルまたはHDMI)音声出力設定」項目をよくご覧のうえ、設定を行ってください。
- ご使用の機器だけでなく、再生するソフトに合わせて音声設定が必要になる場合があります。再生するソフトの説明書(音声設定メニューなど)や**35**ページをご確認のうえ、音声をお楽しみください。
- レコーダーの音声出力設定の状態により、レコーダーで設定されている音質効果が本機の再生音声に反映されない場合があります。

ファミリンク機能を使って アクオスやレコーダーの音声を本機で聞く

アクオスのリモコンを使います

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

本機から音声が出るように、アクオスを設定してください。（**39**ページ）

アクオスの音声を本機で聞く

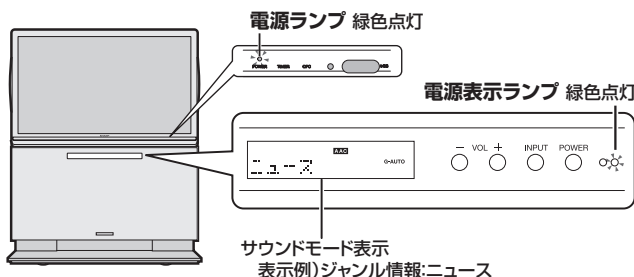
1 電源 **を押す**

- アクオスに連動して本機の電源が自動で入ります。
- 本機の入力切換が自動で「テレビ」になります。
- デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。

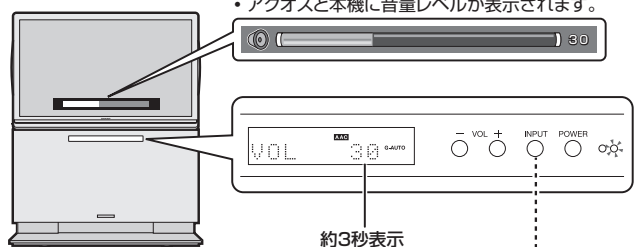
（「ジャンル連動」を「する」に設定している場合… **37** ページ参照）

電源ランプ 緑色点灯

電源表示ランプ 緑色点灯

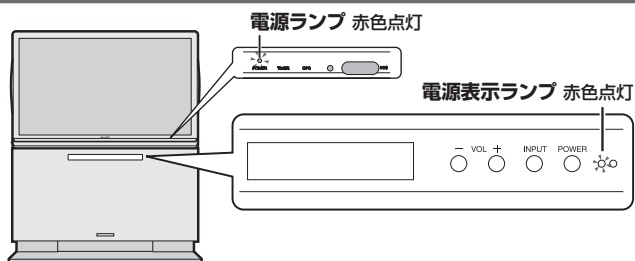
サウンドモード表示
表示例）ジャンル情報:ニュース

2 音量 ＋ 大きくなる ／ － 小さくなる **を押して、音量を調整する**

- アクオスと本機に音量レベルが表示されます。

約3秒表示

- アナログ音声入力に接続した他の機器の音声を聞きたいときは、本機の「INPUT」（入力切換）ボタンで入力を選んでください。（**30**ページ）本機の電源「入/切」や音量調整、消音などはアクオスに連動し操作できます。
- 他の機器の音声を聞いていた状態で電源を切り、アクオスの電源を入れるとアクオスに連動し入力が切り換わります。
- HDMI1やHDMI2に接続したファミリンク対応レコーダーを再生すると、本機とアクオスの入力がレコーダー側に自動で切り換わります。（録画リストやスタートメニュー、番組表などの操作でも自動で切り換わります。）
- 本機にファミリンク対応レコーダーを２台接続している場合、後から再生などをしたレコーダーに自動で切り換わります。
- 本機のHDMI1とHDMI2の両方に接続したファミリンク対応レコーダーをアクオスのリモコンを使って切り換えるには、アクオスの「リンク操作」－「ファミリンク機器リスト」を選んで、ご使用になりたい機器を選んでください。
  製品によっては、操作方法や表示内容が異なる場合があります。その場合は、ご使用のアクオスの取扱説明書をご覧のうえ操作してください。または、本機のリモコンの「HDMI1」または「HDMI2」ボタンを押して入力を切り換えてください。（**30**ページ参照）

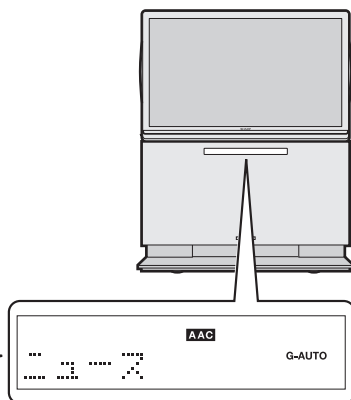
聞き終えたら

電源 **を押して、電源を切る**

- アクオスに連動して本機の電源も自動で切れます。

デジタル放送のテレビ番組ジャンル情報

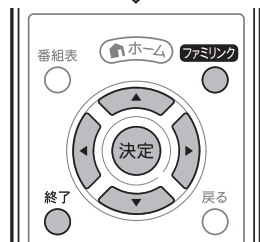
デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。（設定方法については、**37**ページをご覧ください。）

ジャンル情報がある番組（デジタル放送など）		
ジャンル情報（電子番組表）	放送の信号	サウンドモード
情報／ワイドショー／ドラマ／バラエティ／ドキュメンタリー／趣味／教育／福祉	ステレオ／マルチチャンネル	スタンダード＊
映画	ステレオ／マルチチャンネル	シネマ
ニュース／報道	ステレオ／マルチチャンネル	ニュース
スポーツ	ステレオ／マルチチャンネル	スポーツ
音楽／劇場／公演	ステレオ／マルチチャンネル	ミュージック
アニメ／特撮	ステレオ	スタンダード
	マルチチャンネル	シネマ
ジャンル情報が認識できない場合		
地上アナログ放送やDVDソフトなど	スタンダードに設定されます。お好みのサウンドモードでお聞きになりたいときは、手動で切り換えてください。	

＊デジタル放送でもジャンル情報がない場合は、サウンドモードがスタンダードになります。

- サウンドモードが切り換わるとき、一瞬音声が途切れます。
- 放送信号の種類が切り換わるとき、一瞬音声が途切れることがあります。

サウンドモードを手動で切り換えるには…

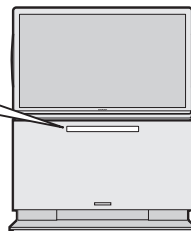
- 新製品や旧製品などのファミリンク対応アクオスと組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書と異なる場合があります。ご使用になるアクオスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

アクオスに向けて操作します。

アクオスのリモコン（例）

1 ファミリンク **を押す**
- ファミリンクパネル（機器選択パネル）が表示されます。

2 で「オーディオ」を選び、決定 **を押す**
- ファミリンクパネル（オーディオ操作パネル）が表示されます。

3 で「サウンドモード（マニュアル）」を選び、決定 **を押す**
- 製品によっては「サウンドモード（マニュアル）」ではなく、「サウンドモード切換」と表示されるものもあります。
- 決定 を押すたびに次の順に切り換わります。

4 終了 **を押す**
- ファミリンクパネルが消えます。

- ファミリンクパネルは時間が経つと消えますので、表示している間に操作してください。
- ファミリンクパネルが表示されないアクオスをご使用の場合は、本機のリモコンを使ってお好みのサウンドモードに切り換えてください。（**33**ページ）

ファミリンク機能を使って アクオスやレコーダーの音声を本機で聞く（つづき）

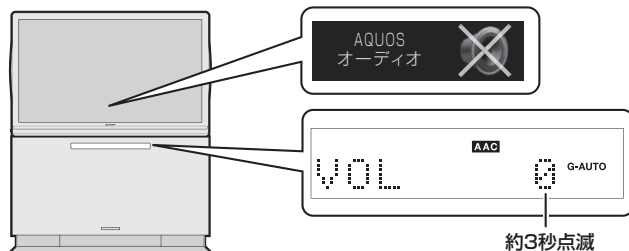
アクオスのリモコンを使います

アクオスに向けて
操作します。

アクオスのリモコン（例）

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

一時的に音声を消すには（消音モード）

消音 を押す

消音モードを解除するには

• もう一度 消音 を押す　　または を押す。

お知らせ

アクオスと本機の両方から音声を出したい場合は・・・

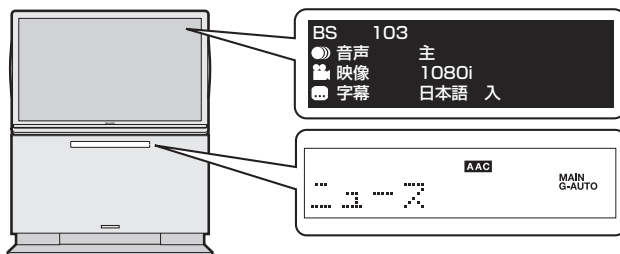
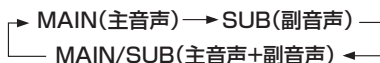
・ アクオスから音声が出ている状態で、本機のリモコンを本機に向けて「消音」ボタンを押してください。
一時的に本機の消音モード状態が解除され、アクオスと本機の両方から音声が出ます。ただし、レコーダーを再生したときにアクオスと本機から出る音声にズレが生じる場合があります。（電源の「入」や音量調整、入力切換などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。）

二重音声番組の音声を切り換えるには

リモコンの 音声切換 を押す

• 音声切換 を押すたびに次の順に切り換わります。

→ MAIN（主音声）→ SUB（副音声）→ MAIN/SUB（主音声+副音声）→

お知らせ

・ レコーダーのデジタル音声出力の設定が「AAC」の場合は、本機のリモコンを本機に向けて「音声切換」の操作をしても同様に切り換えることができます。
・ レコーダーに付属のリモコンをレコーダーに向けて「音声切換」の操作をして切り換わらない場合は、レコーダーのデジタル音声出力の設定を「PCM」にしてください。
・ マルチ音声番組や複数の音声が収録されているBDやDVDの映像などの音声は、本機のリモコンで切り換えることはできません。接続している機器の音声切り換え機能をご使用ください。

ファミリンクパネルを使って本機を操作する

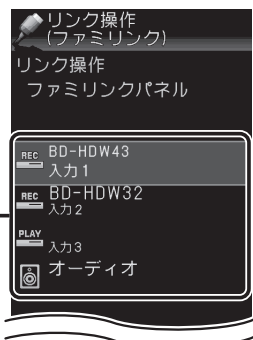
ファミリンクパネル対応のアクオスをご使用のお客様は、ファミリンクパネル(オーディオ操作パネル)を表示させることにより、アクオスのリモコンで本機の操作を行うことができます。

• 操作する前に、アクオスの入力切換を「テレビ」にしてください。

ファミリンクパネルの操作のしかた

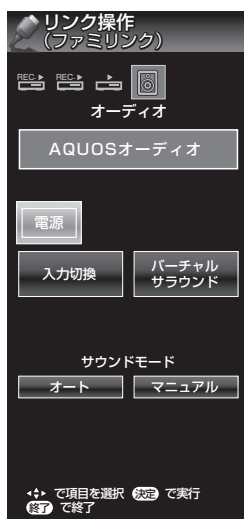
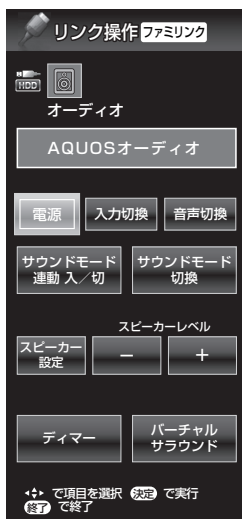
1 ファミリンク ◯ **を押す**

• ファミリンクパネル(機器選択パネル)が表示されます。

アクオスとファミリンクでつながっている機器(ファミリンクパネル対応機器)が表示されます。

2 **で「オーディオ」を選び、決定を押す**

• ファミリンクパネル(オーディオ操作パネル)が表示されます。

• ファミリンクパネルは、製品によって次の2種類があります。新製品などは、表示内容が本書に記載されている内容と異なる場合があります。

ファミリンクパネル(例1)

ファミリンクパネル(例2)

- **電源**：本機の電源を入/切(待機)します。
- **入力切換**：本機の入力を切り換えます。
- **バーチャルサラウンド**：ドルビーバーチャルスピーカー機能のモードの確認および切り換えをします。
- **サウンドモード オート** または **サウンドモード連動 入／切**：本機のサウンドモードがデジタル放送の番組情報に合わせて自動で切り換わるように、ジャンル連動機能を入(する)/切(しない)します。
- **サウンドモード マニュアル** または **サウンドモード切換**：本機のサウンドモードを手動で切り換えます。ジャンル情報がない地上アナログ放送やDVD映像などを視聴するときに使用します。
- **音声切換**：二重音声番組の音声を切り換えます。(**32**ページをご参照ください。)
- **スピーカー設定**、**スピーカーレベル −／＋**：本機のサブウーハーおよびセンターの音量レベルを調整するときに使用します。(**31**ページをご参照ください。)
- **ディマー**：表示部を消灯モードにする(オン)/しない(オフ)を切り換えます。

• ファミリンクパネルで設定した内容は、本機の表示部で確認できます。

お知らせ

• テレビの入力がレコーダー/プレーヤーの入力になっている場合は、ファミリンクパネルにレコーダー操作パネルが表示されます。その場合は、機器選択パネルで「オーディオ」を選んでオーディオ操作パネルに切り換えてください。

3 **で操作したい機能のボタンを選び、決定を押す**

• ファミリンクパネルは、時間が経つと消えますので、表示している間に操作してください。

4 終了 ◯ **を押す**

• ファミリンクパネルが消えます。

アクオスのリモコン(例)

「故障かな？」と思ったら

■ 次のような場合は故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
なお、「保証とアフターサービス」については**53**ページをご覧ください。

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
共通	光デジタルケーブルが接続できない	• 先端についている保護キャップを取り外していますか？ 接続する前に保護キャップがついている場合は取り外してください。	25～26
		• 端子の方向に対してプラグの方向はあっていますか。	—
	付属のHDMIケーブルが接続できない	• 端子の方向に対してプラグの方向はあっていますか。	—
	音が出ない	• 音量が「0」になっていませんか。	31、42
		• 一時的に音声を消す設定（消音モード）になっていませんか。	32、44
		• 接続している機器が正しく選択されていますか。（入力切換をまちがえていませんか。）	30
		• 接続している機器の電源は入っていますか。	—
		• 接続している機器が、本機の入力端子に正しく接続されていますか。	25～26
		• HDMIケーブルや音声ケーブル類は、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり正しく差し込まれていますか。抜けていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度＜リセット操作＞をしてください。	25～26 51
		• ヘッドホンをつないでいませんか。ヘッドホンをつないでいると本機のスピーカーから音声が出ません。	12
		• ファミリンク機能をご使用の場合は、47ページもご確認ください。	
	音の大きさが勝手に変わる	• スタンダード、ニュース、スポーツ、ミュージック、ジャズ、ゲーム、ナイトのサウンドモード時、入力信号が大きすぎたり小さすぎたりした場合には、自動的に適切な音量レベルにする機能が働きます。この機能を働かせたくない場合は、上記以外のサウンドモードでお聞きください。	33
		• アンプ内部が高温（異常状態）になった場合、自動的に音量を下げる保護機能が働くことがあります。この機能が働いたときは、アンプが正常温度に戻るまで音量が低下した状態が続きます。音量ボタンにより音量を上げることはできません。（表示部の音量表示が点滅します。）	—
	左右から逆の音が出る	• 音声入力（アナログ）のL（左）／R（右）が正しく接続されていますか。	26
	雑音が出る	• パソコンや無線機器などは本機のそばで使用しないでください。	10
	ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	• 一度、電源を切り、操作をやり直してください。それでも動作しないときは、＜リセット操作＞をしてください。	29、51
	表示部がつかない	• 表示部が消灯モードになっていませんか。点灯させたいときは、点灯モードに切り換えてください。	32
	電源が入らない	• 電源プラグがコンセントからはずれていませんか。	28
		• 本機の保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。	51
		• 一度＜リセット操作＞をしてください。	51
	PCMやAACなどの表示がでない	• 光デジタル音声ケーブルで、テレビ デジタル音声入力（光）端子に接続していますか。	25～26
		• 付属のHDMIケーブルまたはHDMI認証ケーブルを使用していますか。 HDMI端子に正しく接続していますか。	25
		• 接続している機器から音声信号はでていますか。	51
		• 本機が対応していない信号の場合は、認識できません。	35
	3D対応のレコーダーをHDMI接続したが3D映像がテレビで楽しめない	• HDMIケーブルはハイスピードタイプ対応のケーブルを使用していますか。 • 3D出力対応HDMI端子と本機のHDMI端子を接続していますか。 • 3D対応のテレビを使用していますか。 • レコーダーやテレビの3D設定は正しいですか。	—
リモコン	リモコンが動作しない、または正しい動作をしない	• 乾電池の ⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。	27
		• 乾電池が消耗していませんか。	27
		• リモコンの送信部を本機のリモコン受信部に正しく向けていますか。	29
		• リモコン受信部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。	29
		• 本機の前に障害物はありませんか。	29
		• リモコン受信部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。	29
		• リモコンの正しいボタンを押していますか。	14
		• 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。	—
	リモコンで電源が入らない	• 本機の電源プラグは、コンセントに正しく接続されていますか。	28
		• 乾電池は入っていますか。	27

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
ファミリンク	ファミリンク機能が正しく動作しない	• アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	39
		• HDMIケーブルは正しく接続されていますか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	25 51
		• HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	25
		• 電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししないでください。 映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。	—
		• いったん、アクオスの入力を手動で切り換えて、レコーダーの映像が出ることを確認してください。	—
	アクオスのリモコンで本機を操作できない	• アクオスのリモコン受光部に向けて、リモコンを操作していますか。 リモコンの操作範囲内でご使用ください。	36~39 42~45
		• アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	39
		• ファミリンク対応の機器を使用していますか。	—
		• HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	51
		• アクオスのリモコンの乾電池が消耗していませんか。	—
	アクオスの音声が本機から聞こえない / 出ない	ARC(オーディオリターンチャンネル)対応アクオスの場合:	
		• 本機のHDMI出力端子とアクオスの入力1(HDMI)端子とが、HDMIケーブルで正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	25 51
		• HDMIケーブルは付属のHDMIケーブルまたは市販のハイスピードタイプ対応のケーブルを使用していますか。	—
		• アクオスの「リンク操作」−「ファミリンク設定」−「ARC設定」が「自動」モードになっていますか。	—
		• アクオスにヘッドホンをつないでいませんか。	12
		ARC(オーディオリターンチャンネル)非対応アクオスの場合:	
		• 本機のテレビ デジタル音声入力(光)端子とアクオスの音声出力端子とが、光デジタル音声ケーブルで正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	25 51
		• アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	39
	音や画像が出ない	• HDMI対応の機器を使用していますか。	25
		• HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	25 51
		• HDMIケーブルや音声ケーブル類は、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	—
		• 電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししないでください。 映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。	—
	データ放送でカーソルが移動したときの音が出ない	• データ放送のカーソルの移動音はアクオスからはPCMのみで出力されています。 カーソル移動音を本機から出すには、アクオスの「デジタル音声設定」を「PCM」にしてください。	38
	電源が勝手に切れる	• HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。 ケーブルを正しく接続し直して、一度<リセット操作>をしてください。	25 51
		• HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。	—
	自動でサウンドモード(ジャンル連動)が切り換わらない	• アクオスの設定が「AQUOSオーディオで聞く」モードになっていますか。	39
		• アクオスの「機能切換 — ファミリンク設定」の「ジャンル連動」が、「する」になっていますか。	37
	一瞬音声が途切れる	• サウンドモードが切り換わるときや放送信号の種類が切り換わるときに、一瞬音声が途切れますが不良や故障ではありません。 アンプ内部の設定変更のときに雑音を出さないようにするために、一瞬音を消しています。	—
	ジャンル連動の設定ができない 「AQUOS オーディオで聞く」モードの設定ができない	• HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。	—
	レコーダーで放送を視聴時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	• アクオス側の入力切換をいったん他の入力に切り換えた後、もう一度レコーダーの入力に戻してください。	—

次のページに続く

「故障かな？」と思ったら（つづき）

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
ファミリンク	DVD再生時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	・サウンドモードは、デジタル放送のジャンル情報に連動して切り換わります。 DVD再生では切り換わりません。	—
	レコーダー再生時に本機のサウンドモードがジャンル連動しない	・ディスクの記録方式が放送波と同じ録画方式のジャンル情報に連動して切り換わります。 それ以外の録画方式では切り換わりません。	—
	レコーダーの電源を入れても、アクオスや本機の電源が入らない	・レコーダーを再生してください。 レコーダーを再生すると、本機やアクオスの電源が入ります。	—
	レコーダーを再生したときに、アクオスの映像と本機からの音声にズレがある	・音声の遅延(ディレイ)設定を調整してください。 本機から出る音声の出力を遅らせて映像とのズレを軽減させることができます。	40
	ヘッドホンをアクオスにつないでも音が出ない	・アクオスの設定が「AQUOSで聞く」モードになっていますか。 「AQUOSオーディオで聞く」モードでは聞くことができません。	39
その他	電源表示ランプが赤く点滅している	・著しい大音量で聞いていませんか。 異常に暑い場所で使用していませんか。 大音量や異常に暑い場所で長時間使用すると、保護回路が働く場合があります。一度、電源プラグをコンセントから抜いて、5分以上経ってから再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。	51

よくあるお問い合わせ

■「故障かな？」と思ったら（**46～48**ページ）もあわせてご覧ください。

	お問い合わせ	回　答	参照ページ
設置	地デジ非対応テレビでも設置できますか？ ファミリンク非対応テレビでも設置できますか？ 他社のテレビは設置できますか？ （他社のテレビは使用できますか？）	・設置できるテレビは、シャープ製で指定されたモデルのみです。設置できるテレビの機種については、シャープホームページをご覧ください。	—
	背面を壁いっぱいに設置することはできますか？ 部屋のコーナーに設置することはできますか？	・設置可能です。 ただし、テレビやレコーダーなどと接続するケーブル類をあらかじめ本機に接続し、その他必要なケーブル類を準備しておく必要があります。	—
接続	CDプレーヤーやカセットデッキなどを接続することはできますか？ アナログ入力はできますか？	・接続できます。 「HDMI端子のない機器（テレビやDVDプレーヤーなど）を接続する」をご覧ください。	26
	外部スピーカーを接続することはできますか？	・外部スピーカーを接続することはできません。	—
	外部アンプを接続して本機のスピーカーから音を出すことはできますか？	・外部アンプを接続することはできません。	—
	他社のレコーダーと接続できますか？ （他社のレコーダーは使用できますか？）	・接続できます。 ただし、ファミリンクによる連動動作をすることはできません。 接続や設定については、各機器の取扱説明書もご覧ください。	25、26
	HDMIによるコントロール機能に対応した他のオーディオ機器を接続することはできますか？	・本機およびアクオスのどちらにも接続しないでください。 ファミリンクによる正常な連動動作ができなくなります。	—
	ゲーム機器を接続できますか？	・接続できます。 HDMI出力端子の有無により接続方法が異なりますので、それぞれの接続方法をご参照ください。 ただし、サウンドモードは自動で切り換わりませんので、手動でお好みのモードに切り換えてください。	25、26 33

	お問い合わせ	回　　答	参照ページ
ファミリンク	ファミリンクを使う場合に、特別に設定することはありますか？	• アクオス側での設定が必要です。 「ジャンル連動」を「する」に設定すると共に「AQUOS オーディオで聞く」モードに設定する必要があります。	37、39
	本機からアクオスの音声を聞くにはどうすればいいですか？		
	サウンドモードが自動で切り換わるようにするにはどうすればできますか？		
	アクオスの電源を入れてから本機の電源が入って音声が出るまでに十数秒かかるが不良では？	• 不良や故障ではありません。 接続しているHDMI機器の認証などにある程度の時間がかかります。	—
	アクオスの電源を入れると本機の電源も入りますか？	• ファミリンク対応のアクオスを接続し、アクオスの設定を「AQUOSオーディオで聞く」モードに設定していれば、アクオスに連動して入ります。	39
	アクオスの電源を切ると本機の電源も切れますか？	• ファミリンク対応のアクオスを接続していれば、アクオスに連動して切れます。	—
	二ヶ国語放送の音声を切り換えるには？	• アクオスリモコンの「音声切換」ボタンで操作できます。	44
	手動でそれぞれのプリセットサウンドモードに設定したあと、ジャンル連動に戻すにはどうすればいいですか？	• ジャンル連動の設定を解除しないで、手動切換の操作をした場合は、デジタル放送のテレビ番組に切り換えると、テレビ番組のジャンル情報に連動して、本機のサウンドモードが自動で切り換わります。 • ジャンル連動の設定を解除したときは、「する」の設定に戻してください。	— 37
	ファミリンク機能で本機とアクオス、本機とレコーダーを接続している場合、レコーダーの電源を入れると本機やアクオスの電源は入りますか？	• レコーダーの電源を入れただけでは本機やアクオスの電源は入りません。 レコーダーを再生すると、本機やアクオスの電源が入ります。	—
	レコーダーの映像を視聴するとき、ジャンル連動は使用できますか？	• 録画方式がデジタル放送と同じジャンル情報が記録されていれば、連動して切り換わります。それ以外の録画方式の場合は切り換わりません。	—
	ファミリンク機能でアクオスと連動させている場合、CD プレーヤーを接続したときに、本機だけ電源を入れて使用することはできますか？ （アクオスの電源を入れないで、CD プレーヤーやカセットデッキなどの音声を聞きたい場合はどうすればいいですか？）	• デジタル音声入力(光)や音声入力(アナログ)に接続している場合は使用できます。 この場合、電源の「入／切」や入力切換、サウンドモードの切換、音量調整などは、本機のリモコンで操作してください。 なお、本機を単独で使用中にアクオスの電源を「入」にしたときは、本機とアクオスの両方から音声が出たり、アクオスで受信している音声に切り換わったりします。また、アクオスの電源を「切」にしたときは、本機の電源も連動して切れますのでご注意ください。 本機を単独でご使用中の場合は、アクオスを含め、HDMI接続している機器の操作は行わないことをお勧めします。	30
その他	アクオスと本機の両方から同時に音声を出すことはできますか？	• 一時的には可能ですが、電源の「入」や音量調整、入力切換などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。 また、レコーダーを再生したときにアクオスと本機から出る音声にズレが生じる場合があります。	39、44
	アクオスから音声を聞くにはどうすればいいですか？	• アクオスの設定を「AQUOSで聞く」モードに戻してください。 電源の「入」や音量調整などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。	39
	アクオスにヘッドホンをつないで音声を聞くにはどうすればいいですか？		
	光デジタル音声ケーブルを接続して、パソコンに保存した音楽を聞くことはできますか？	• パソコン側に光デジタル音声出力端子があり、出力がPCM32kHz、44.1kHz、48kHzでしたら可能です。 詳しくは、お使いのパソコンの仕様を確認してください。	—

次のページに続く

よくあるお問い合わせ（つづき）

	お問い合わせ	回　　答	参照ページ
その他	サブウーハーの音量レベルは調整（変更）できますか？	・サブウーハーの音量レベルは－５～＋５の範囲で調整できます。	31
	重低音を上げたいができますか？		
	音の質を変えるにはどうすればできますか？	・サウンドモードボタンを押すことにより音質を変えることができます。	33
	左右の音量レベルは調整（変更）できますか？	・左右の音量レベルの調整はできません。	—
	サウンドモード切換、DVS、スピーカー設定が設定できない。	・本体にヘッドホンを接続してませんか。ヘッドホンを接続しているときは、働きません。 操作しようとすると本体表示部に「ＨＰ」が約一秒間点滅します。	—
	ドルビープロロジックⅡ、G-AUTO 機能が働かない。		
	本機は 5.1ch のシステムですか？	・5.1chサラウンドシステムではありません。 2.1chシステムですが、ドルビーバーチャルスピーカー機能により5.1chを鳴らしたときと同じような響きのある立体的な仮想サラウンドを楽しむことができるシステムです。	34
	スピーカーを増設して 5.1ch サラウンド出力はできますか？	・5.1ch 出力はできません。	—
	電源を切ったときに、待機ランプを消灯させることはできますか？	・電源コードがつながっているときは、消灯させることはできません。 消すには電源コードを抜いてください。	—
	リセット方法は？	・＜リセット操作＞をご覧ください。	51
	購入したときの設定状態に戻すにはどうすればできますか？	・<お買い上げ時の設定状態に戻すには>をご覧ください。	51
	タイマー機能はありますか？	・タイマー機能はありません。	—
	１ビットデジタルアンプ搭載ですか？	・本機には1ビットデジタルアンプは搭載していません。 デジタルアンプを搭載しています。	—
	サブウーハーはついていますか？	・サブウーハーは正面下部についています。	11
	収納部に、ガラス戸はついていますか？	・ガラス戸はついていません。	—
	スピーカーは取り外して、レイアウトを変えることはできますか？	・スピーカーは内蔵式ですので、取り外すことはできません。	—
	転倒防止はできますか？	・本機の液晶テレビ用固定金具に市販のネジとワッシャーを取り付け、壁に取り付けたヒートンとヒモでつなぐことで、転倒を防止することができます。 ・本機の液晶テレビ用固定金具に市販のL字型金具を取り付けることで、本機と壁を固定することができます。	22 23

エラーメッセージについて

操作を誤ったときなどに、表示部に次のような表示がでます。

エラー表示	エラーの内容
DSP－E2	• サラウンド回路の動作不良。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
DSP－E3	• サラウンド回路以外の動作不良。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
HDMI1、HDMI2、テレビ入力のときに音声入力信号表示(PCM、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC)が全消灯	• 入力信号がないとき。 → 接続した機器を再生してください。 • 規格外の信号で認識することができない。 → DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、Linear PCM以外の信号は、認識することができません。 • デジタル音声入力端子の接続不良。 → 電源を切って、ケーブルが正しく接続されているか確かめてください。
Er－AP＊＊ （3秒間表示） ＊＊:数字を表示	• 自己チェックにて異常と判断した。 → 近くに雑音を発生するもの(パソコンや携帯電話など)があれば本機から離したり、それらの機器の電源プラグを別のコンセントに差し変えてみてください。(※)
電源表示ランプ （赤色の点滅）	• 著しい大音量で聞いていませんか。 • 異常に暑い場所で使用していませんか。 → 大音量や異常に暑い場所で長時間使用すると、保護回路が働く場合があります。一度、電源プラグをコンセントから抜いて、5分以上経ってから再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。(※)

（※）電源プラグの差し込み直しや電源の入れ直しをしても同じ表示が出るときは、**53**ページの「保証とアフターサービス」をご覧のうえ、修理を依頼してください。

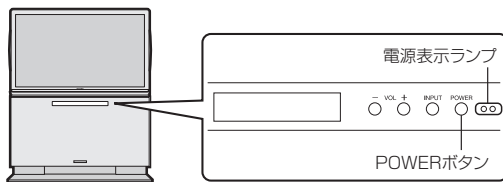
リセット操作について

異常が起きたら

この製品を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けたときや誤った操作をしたときなどに、正しく表示しなくなったり、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。このようなときは、次のようにリセット操作をしてください。

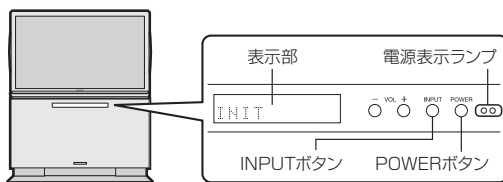
＜リセット操作＞

本体の POWER を押し続ける(約8秒以上)

電源表示ランプが消灯するまで押し続けてください。
電源表示ランプが消灯したら、リセット操作は完了です。

＜お買い上げ時の設定状態に戻すには＞

1．本体の POWER と INPUT を同時に押し続ける(約8秒以上)

2．電源表示ランプが消灯したら POWER から指を離す

電源表示ランプ(緑色)が点灯し、表示部に“INIT”が約1秒表示されたあと電源が切れ、電源表示ランプ(赤色)が点灯したら完了です。
“INIT”の表示が出たら「INPUT」ボタンから指を離せます。

リセット操作をしても同じ表示が出るときは、**53**ページの「保証とアフターサービス」をご覧のうえ、修理を依頼してください。

おもな仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

● 本体部（アンプ／フロントスピーカー／サブウーハー内蔵）

アンプ部	
実用最大出力合計値	300W（非同時駆動、JEITA※）
実用最大出力	HVTユニット フロント 75W／サブウーハー 150W (非同時駆動、JEITA※)
アンプ方式	デジタルアンプ
音声入力端子	デジタル外部入力: HDMI入力×2（映像入力兼用） 角形光入力×1 アナログ外部入力: 2V rms=0dB(47KΩ) ピンジャック (L／R)×1
音声出力端子	デジタル外部出力: HDMI出力×1（映像出力兼用、1080pまで対応）
ヘッドホン端子	ヘッドホン端子（3.5φ（ステレオミニプラグ））（10mW（32Ω））×1
電源	100V AC、50／60Hz
電源アウトレット	100V AC、50／60Hz、300Wまで供給
消費電力	90W （待機消費電力：0.2W）
スピーカー部	
フロントスピーカー	6.3cm 両面駆動 HVT ユニット (4 Ω) × 2、3cm ツィーター (4 Ω) × 2
サブウーハー	16cmウーハー(8Ω)× 1
共通部	
最大外形寸法	938(幅)×95(上面奥行)／357(底面奥行)×575(高さ)（JEITA※）
開口部寸法（内寸）	484（幅）×66.2（高さ）mm
質量	約31kg
液晶テレビ取付部耐荷重	約30kg
ベース板耐荷重	約10kg
使用温度範囲	5℃～35℃
使用湿度範囲	10%～80%

※ 実用最大出力、最大外形寸法は、JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

● リモコン部

リモコン	
電源	DC 3V（付属単3乾電池×2個）

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書(別添)

■ 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。
保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

■ **保証期間**
お買いあげの日から1年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

使い方や修理のご相談など

■ 修理・使い方・お手入れ・お買い物などのご相談・ご依頼、及び万一、製品による事故が発生した場合は、お買いあげの販売店、または下記窓口にお問い合わせください。

【お客様相談センター】

0120 - 001 - 251
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

※詳細は、裏表紙をご確認ください。

補修用性能部品の保有期間

■ 当社は、このシアターラックシステムの補修用性能部品を、製品の製造打切後、8年保有しています。
■ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは 出張修理

■ 「故障かな？」と思ったら(**46〜48**ページ)を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

- 品　　名：シアターラックシステム
- 形　　名：AN-AS5000
- お買いあげ日(年月日)
- 故障の状況(できるだけ具体的に)
- ご　住　所(付近の目印も合わせてお知らせください。)
- お　名　前
- 電話番号
- ご訪問希望日

便利メモ

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販売店名
年　月　日	電話(　　)　　—

保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

長年ご使用の機器の点検を!

このような症状はありませんか?

- 電源コードやプラグが異常に熱い
- コゲくさい臭いがする
- 電源コードに深いキズや変形がある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

用語の解説

3D パススルー
HDMI ver.1.4 であたらしく追加された機能の 1 つです。
3D 映像に対応したブルーレイディスクレコーダーなどの3D 映像信号を3D 映像に対応したテレビに伝送する機能です。

AAC（Advanced Audio Coding）
音声圧縮方式の 1 つで国際的な標準規格です。地上デジタル /BS デジタル /CS デジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用されています。MPEG-1 に採用されている音声圧縮方式「MP3」より、1.4 倍ほど圧縮効率が高くなっています。

ARC（オーディオリターンチャンネル）
HDMI ver.1.4 で新しく追加された機能の 1 つです。
ARC 対応のテレビの HDMI 入力端子と本機の HDMI 出力端子とをハイスピード HDMI® ケーブルでつなぐことにより、テレビからの音声信号を受けることができるため、従来のように光デジタル音声ケーブルをつなぐ必要がありません。

DOLBY DIGITAL
劇場向けデジタル音声システムの 1 つで、DVD の標準音声フォーマットとして採用されています。高品質なサウンドを実現しています。

DTS（Digital Theater Systems）
DTS Inc. が開発した、劇場向けデジタル音声システムの 1 つです。臨場感のあるサラウンドを実現します。

HDMI（High Definition Multimedia Interface）
ハイビジョン映像信号、マルチチャンネルオーディオ信号、双方向伝送対応のコントロール信号を 1 本のケーブルで接続できるデジタル AV インターフェースです。デジタル信号を圧縮せずに転送するので、高品位な画質・音質をシンプルな接続で楽しむことができます。

HVT 方 式（Horizontal-Vertical Transforming）
ボイスコイルを水平に動かし、その動きを垂直に変換して振動板を振動させる技術です。水平に駆動させることで、最大振幅を確保しながら筐体を薄くすることができ、振幅を制限する必要がないので、低域の再生能力を確保することも可能です。これにより薄型、高音質のスピーカーを実現することができます。

PCM（Pulse Code Modulation）
アナログの音声信号をデジタル信号に変換する方式の 1 つです。アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化します。この方式で変換した信号を PCM 信号といいます。音楽 CD や DVD オーディオなどに使用されています。

デコーダー
DOLBY DIGITAL や DTS で圧縮された音声を復元して元の音声に戻す装置です。

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）
2.1ch のシステムで、5.1ch を鳴らしたときと同じような響きのある立体的な仮想サラウンドを楽しむことができます。

ドルビープロロジックⅡ
2ch の音声を信号処理により広がりのある音声に拡張します。音楽 CD や古い映画などのステレオ音源も、原音を損なわず自然なサラウンドで楽しむことができます。

ファミリンク機能
ファミリンク機能とは、主に HDMI CEC (Consumer Electronics Control) を使用し、テレビや BD/DVD レコーダー、オーディオアンプを制御する機能です。
アクオスの操作に連動し、本機の電源「入 / 切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。

プリセットサウンドモード
最適な音質となるように、推奨するレベル値にあらかじめ調整されたサウンドモードです。
ドラマや音楽・スポーツ番組などを聞くとき、11 種類のプリセットサウンドモードの中から、お好みのサウンドモードを選んで楽しむことができます。

さくいん

●英数字

AAC（Advanced Audio Coding）....4、35、54
ARC（Audio Return Channel）..........25、36、54
DOLBY DIGITAL..........4、35、54
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ..........4、35、54
DTS（Digital Theater Systems）....4、35、54
HDMI..........4、54
HDMI ケーブル..........3、25、36
HDMI モード..........40
HVT..........4、52、54
PCM（Pulse Code Modulation）.....35、54

●あ行

映像ケーブル..........26
エラーメッセージ..........51
音を消す（消音）..........32、44
音声ケーブル..........26
音声（主 / 副）の切り換え..........32、44
音声の遅延（ディレイ）設定..........40
音量の調整..........31
　サブウーハーの音量レベル調整..........31
　センターの音量レベル調整..........31

●か行

乾電池..........3、27
ケーブルクランプ..........27
ケーブル類の処理..........27

●さ行

仕様..........52
消音（音を消す）..........32、44
ジャンル情報..........43
ジャンル連動..........37
接続..........25 ～ 26
　テレビとの接続..........25 ～ 26
　電源を接続する..........28
　レコーダーなどとの接続..........25 ～ 26

●た行

デコーダー..........35、54
テレビの転倒防止策..........22 ～ 24
電源を入れる..........29
ドルビーバーチャルスピーカー (DVS)..........34、54

●な行

入力の切り換え..........30

●は行

光デジタル音声ケーブル..........25 ～ 26、36
ハンドベルト..........20 ～ 21
表示部..........12
表示部の消灯モード（表示部を消す）..........32
ファミリンク..........36 ～ 45、54
ファミリンクパネル..........45
付属品..........3
プリセットサウンドモード..........33、54
ヘッドホン（ヘッドホン端子）..........4、12

●ら行

リセット操作..........51
リモコン
　乾電池を入れる..........27
　使用範囲..........29

シャープはエコポジティブ。

ファミリンク機能付アクオスの電源を切ると連動して当機の電源も自動的に切ることができます。
電源の切り忘れもなく効率的な省エネになります。

省エネ「HDMI オート」モード

当機は電源を切っても少量の電力を消費しています。
「HDMI オート」モードにより、効果的な省エネモードになっています。

MY家電登録のご案内

詳しくはホームページで →

人と家電と暮らしをつなぐ、シャープの会員サイト

SHARP i CLUB

http://iclub.sharp.co.jp/m/

SHARP i CLUB は、お客様がご愛用のシャープ製品について、便利な使い方や、製品のサポート・サービス、キャンペーンなど、一人ひとりに合ったサービスをご利用いただける会員様向けサイトです。

ぜひ登録ください。

お問い合わせ先

お問合わせの前にもう一度「故障かな？と思ったら」(46ページ)「よくあるお問い合わせ」(48ページ) をご確認ください。

パソコン

メールでのお問い合わせなど　**【シャープサポートページ】**

シャープ　お問い合わせ　検索　**http://www.sharp.co.jp/support/**

お電話

使用方法や修理のご相談など　**【お客様相談センター】**

0120 - 001 - 251

携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

おかけ間違いのないようにご注意ください。

■IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は…

電　話	FAX
043 - 331 - 1626	043 - 297 - 2696
〒261-8520 千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2	

受付時間　●月曜～土曜:**9:00～20:00**　●日曜・祝日:**9:00～17:00**（年末年始を除く）

●所在地・電話番号・受付時間などについては、変更になることがあります。（2012.02）

シャープ株式会社

本　　　　　　社　〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193 栃木県矢板市早川町174番地

Printed in China
ORA9062-A

TINSJA571WJZZ
12P02-CH-NM